

令和4年度第1回スポーツ推進審議会

令和4年4月20日（水）午後6時00分～
小金井市役所第二庁舎8階801会議室

次 第

1 議題

- (1) 第2次スポーツ推進計画の策定等について（諮問）
- (2) 会議の傍聴について、意見・提案シートの取り扱い
- (3) スポーツ団体に対する補助金交付について
- (4) 令和4年度 スポーツに係る予算について
- (5) 第2次スポーツ推進計画の策定について
- (6) 令和4年度 スポーツ推進審議会スケジュール（案）について
- (7) その他

2 配付資料

- 資料1 第2次小金井市スポーツ推進計画の策定等について（諮問書写し）
- 資料2 会議の傍聴、意見・提案シートの取り扱いについて
- 資料3 令和4年度スポーツ関係団体への補助金交付額
- 資料4 令和4年度 スポーツに係る予算資料
- 資料5 国や東京都によるスポーツ関連計画の現況
- 資料6 委員意見を踏まえたアンケート調査票修正対応案
- 資料7 スポーツに関する意識調査 調査票（郵送）
- 資料8 スポーツに関する意識調査 調査票（WEB）
- 資料9 スポーツに関する意識調査 調査票（子ども向け）
- 資料10 令和4年度 小金井市スポーツ推進審議会スケジュール（案）



小教生発第412号
令和4年4月20日

小金井市スポーツ推進審議会
会長 田中幸夫様

小金井市教育委員会
教育長 大熊雅士



第2次小金井市スポーツ推進計画の策定等について（諮問）

小金井市スポーツ推進審議会条例第2条の規定に基づき、下記のとおり諮問いたします。

記

1 諮問事項

- (1) 第2次小金井市スポーツ推進計画の策定について
- (2) スポーツの推進に関する重要事項の調査審議について

1 会議の傍聴

小金井市附属機関等の会議に関する傍聴要領のとおりとする。

2 「意見・提案シート」の取扱い

- (1) スポーツ推進審議会における検討内容等に対し、「意見・提案シート」の提出があった場合は、正式資料として公開の対象とする。
- (2) 無記名で提出されたものについては、参考資料として委員のみに配布する。
- (3) 公序良俗に反する内容や個人情報に関する内容等の場合は配布せず、内容の一部がそのような内容の場合は、該当部分を黒塗りにして配布する。
- (4) 会議開催日の1週間前までに提出されたものは、次回会議で配布する。

小金井市附属機関等の会議に関する傍聴要領

(趣旨)

第1条 この要領は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3号の規定に基づき法律もしくは条例の定めるところにより設置される附属機関又は市長の定める他の審査、諮問、調査等のために設置される機関（以下「附属機関等」という。）の会議の傍聴について、必要な事項を定めるものとする。

(傍聴席の確保)

第2条 附属機関等の長は、会議を開催しようとするときは、傍聴席が確保できるよう努めなければならない。ただし、会議会場の広さ等により傍聴席の確保が困難な場合は、この限りでない。

(傍聴人の数)

第3条 附属機関等の会議の傍聴人の数は、会議会場の広さ等を考慮し、附属機関等の長が決めるものとする。

(傍聴人の手続及び決定)

第4条 会議を傍聴しようとする者は、附属機関等の長に申し込み、小金井市附属機関等の会議傍聴券（様式。以下「傍聴券」という。）の交付を受けなければならない。

2 傍聴券の交付を受けた者は、傍聴券に記載された日に限り傍聴することができる。

3 傍聴人は、原則として会議開催予定時刻の10分前から先着順で決定する。ただし、会議開催予定時刻の10分前における傍聴希望者が、前条に規定する傍聴人の人数を超えるときは、くじ引きで傍聴人を決するものとする。

(傍聴券の提示)

第5条 傍聴人は、係員から要求があったときは、傍聴券を提示しなければならない。

(傍聴券の返還)

第6条 傍聴券の交付を受けた者は、傍聴を終え退場しようとするときは、傍聴券を返還しなければならない。

(傍聴席に入ることができない者)

第7条 次の各号の一に該当する者は、傍聴席に入ることができない。

- (1) 凶器その他危険なものを持っている者
- (2) 酒気を帯びていると認められる者
- (3) 張り紙、ビラ、掲示板、プラカード、旗、のぼりの類を持っている者
- (4) 笛、ラッパ、太鼓その他楽器を持っている者
- (5) 前各号に定めるもののほか、会議を妨害し、又は人に迷惑を及ぼすと認められるものを持っている者

(傍聴人の守るべき事項)

第8条 傍聴人は、傍聴席にあるときは、次に定める事項を守らなければならない。

- (1) 会議における言論に対して拍手その他の方法により公然と可否を表明しないこと。
- (2) 談論し、放歌し、高笑しその他騒ぎたてないこと。

- (3) はち巻き、腕章、たすきの類をする等示威的行為をしないこと。
- (4) コートの類を着用しないこと。ただし、病気その他の理由により、会議の長の許可を得たときは、この限りでない。
- (5) 飲食又は喫煙をしないこと。ただし、飲食について会議の長の許可を得たときは、この限りでない。
- (6) みだりに席を離れ、又は不体裁な行為をしないこと。
- (7) 携帯電話は、電源を切り、又はマナーモードとし、通話をしないこと。
- (8) 写真及び映像の撮影、録音並びにこれに類する行為をしないこと。ただし、会議の長の許可を得たときは、この限りでない。
- (9) 前各号に定めるもののほか、会議の秩序を乱し、又は会議の妨害となるような行為をしないこと。

(傍聴人の退場)

第9条 傍聴人は、秘密会を開く議決があったときは、速やかに退場しなければならない。

(係員の指示)

第10条 傍聴人は、すべて係員の指示に従わなければならない。

(違反に対する措置)

第11条 傍聴人がこの要領に違反するときは、会議の長はこれを制止し、その命令に従わないときは、これを退場させることができる。

(委任)

第12条 この要領に定めるもののほか、傍聴の実施に関し必要な事項は、会議の長が別に定める。

意見・提案シート

◆小金井市スポーツ推進審議会への検討内容についてご意見・ご提案がありましたら、以下にご記入の上、生涯学習課にご提出ください。次回開催の1週間前に届いたものは、小金井市スポーツ推進審議会で資料として配付します。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

提出日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ※原文のまま配付しますので、氏名についても公開の対象となります。

氏 名 _____ ※公序良俗に反する内容や個人情報に関する内容等の場合、配布しません。

(送付先)
小金井市生涯学習部生涯学習課スポーツ振興係
〒184-8504 小金井市本町6-6-3 連絡先：042-386-2462
FAX：042-383-1133 E-mail：k020299@koganei-shi.jp

資料3

令和4年度スポーツ関係団体への補助金交付額（内訳と昨年度との比較）

1 公益財団法人小金井市体育協会

（単位：円）

	令和4年度	令和3年度	増減	備考	団体の目的	根拠規定
I 事務費補助	8,555,780	8,550,428	5,352	人件費補助	小金井市における体育運動を振興して市民の健康増進と体力向上を図り、スポーツ精神を涵養し、もって地域社会の生活・文化の向上・発展に寄与する。	小金井市体育協会補助金交付要綱
II 事業費補助	3,222,000	3,222,000	0			
1 婦人・子供スポーツ大会	0	0	0	令和4年度は実施しない		
2 指導者派遣	39,000	39,000	0	指導員の登録、紹介		
3 青少年スポーツ育成	469,000	469,000	0	スポーツ少年団の育成と体育優良生徒を表彰		
4 研修活動費	24,000	24,000	0	指導者・実務者研修の実施		
5 広報活動費	162,000	162,000	0	新聞・広報紙の発行、HP維持・更新		
6 各種大会共済費	2,340,000	2,340,000	0	29団体／48事業実施予定		
7 体育館等使用料補助	114,000	114,000	0	体育施設の公的使用への補助		
8 市民健康開発事業	64,000	64,000	0	健康体操、講習会等の実施		
9 スポーツ交流事業	10,000	10,000	0	他地域団体との交流事業		
合計	11,777,780	11,772,428	5,352			

2 NPO法人黄金井倶楽部

（単位：円）

	令和4年度	令和3年度	増減	備考	団体の目的	根拠規定
I 事務費補助	2,338,320	2,338,536	△ 216	人件費補助	年齢、性別を問わず、自発的にスポーツや文化活動を楽しみ、各自の健康、体力の維持・向上を図るための事業を行う。	黄金井倶楽部補助金交付要綱
II 事業費補助	400,000	400,000	0	スポーツ・健康増進・文化活動振興事業		
合計	2,738,320	2,738,536	△ 216			

※ 上記金額は、両団体ともに年度当初の交付決定（予定）額であり、確定額は年度終了後に提出される実績報告に基づき確定する。

資料4

令和4年度 スポーツに係る予算について

1 歳入 (千円)

主な収入	令和4年度 当初予算額	令和3年度 当初予算額	増減額
使用料、太陽光発電余剰電力売電料、光熱水費、自動販売機収入	16,252	32,236	▲ 15,984

2 歳出 (千円)

事業名	令和4年度 当初予算額	令和3年度 当初予算額	増減額
スポーツ推進委員に要する経費	3,246	3,280	▲ 34
市民体育祭に要する経費	6,766	6,766	0
スポーツ教室・各種大会に要する経費	10,085	12,271	▲ 2,186
スポーツ開放・学校開放に要する経費	3,373	3,134	239
負担金・補助金	14,517	14,512	5
その他社会体育事務等に要する経費	408	2,928	▲ 2,520
民間体育施設開放に要する経費	469	468	1
スポーツ推進審議会に要する経費	2,535	1,652	883
上水公園運動施設等維持管理に要する経費	13,722	12,369	1,353
総合体育館維持管理に要する経費	266,576	132,451	134,125
小金井市テニスコート場維持管理に要する経費	22,539	21,256	1,283
栗山公園健康運動センター維持管理に要する経費	92,894	554,247	▲ 461,353
計	437,130	765,334	▲ 328,204

国や東京都によるスポーツ関連計画の現況

1. 国の計画(第3期スポーツ基本計画 令和4年3月)

スポーツ基本計画における「スポーツ」の捉え方

- ・スポーツは「する」「みる」「ささえる」という様々な形での「**自発的な**」参画を通じて、人々が感じる「**楽しさ**」や「**喜び**」に**根源を持つもの**として捉える。
- ・こうした「スポーツの価値」を原点にして大切に、更に高め、**生涯を通じてスポーツを「好き」**でいられる環境を整えることが不可欠。



基本計画で取り扱う「スポーツ」

スポーツは、「する」「みる」「ささえる」という様々な形での「**自発的な**」参画を通して、人々が感じる「**楽しさ**」や「**喜び**」に本質を持つもの（「Well-being」の考え方にもつながる）

基本



する



みる



ささえる

スポーツを通じて、他の分野にも貢献し、優れた効果を波及したり、様々な社会課題を解決したりすることができるという**社会活性化等に寄与する**



地域社会の再生



健康長寿社会の実現



国民経済の発展



国際相互理解の促進

など

中長期的なスポーツ政策の基本方針と第3期計画における新たな視点

第2期計画において掲げた、

- ①スポーツで「人生」が変わる ②スポーツで「社会」を変える
③スポーツで「世界」とつながる ④スポーツで「未来」を創る

という4つの中長期的な基本方針は今後も踏襲。



他方、

中長期的な基本方針に沿った具体的な施策を検討・実践するにあたり、スポーツを取り巻く環境や社会状況の移り変わりとともに、**基本方針の指す内容や、実現するための手立ては大きく変化。**

例えば、

「人生」

▶ 働き方や生活態様等のライフスタイルの変化、「人生100年時代」と言われる既存のライフステージ・ライフコースの変化

「社会」

▶ 情報化社会・技術の進歩（リアルとデジタルの融合等）、様々な視点や価値観を共有しあう多様性を尊重する声の高まり

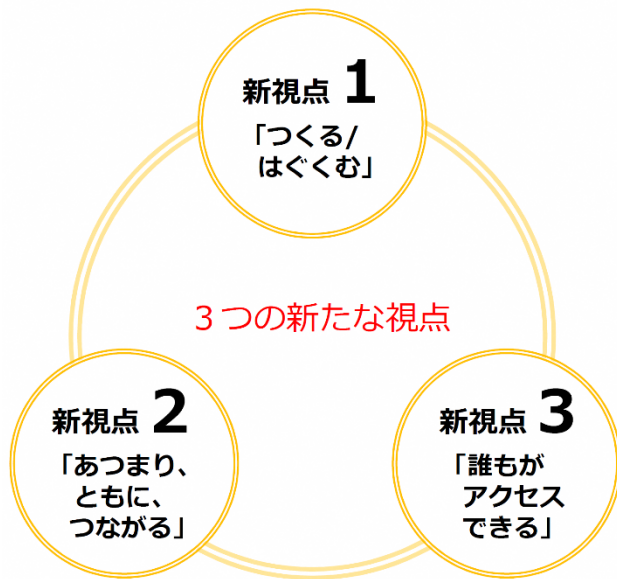
「世界」

▶ グローバル化・国際化の進展（新型コロナウイルス感染症の影響前から生じていた流れのポストコロナ社会における展望）

「未来」

▶ 人口減少社会を迎えるなかでの「持続可能性」の課題。SDGsの展開（何を、どのような形で残していくか。その際、スポーツはどのような貢献が可能なのか）

↑ これらを踏まえると、3つの新たな視点が必要。



3つの新たな視点は、それぞれが完全に独立したものとして捉えるのではなく、相互に密接に関係しあう側面があることに留意。

1. 「つくる/はぐくむ」

社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し・改善し、最適な手法・ルールを考え、作り出す。

2. 「あつまり、ともに、つながる」

様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、課題の対応や活動の実施を図る。

3. 「誰もがアクセスできる」

性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違いによって、スポーツ活動の開始や継続に差が生じないような社会の実現や機運の醸成を図る。

新たな3つの視点を支える具体的な施策

1. 「つくる/はぐくむ」

既存の枠組みや考え方のみにとらわれず、社会情勢や状況等に応じて、不断に柔軟に見直し・改善し、最も適切・有効な、あるいは個々の状況等に応じた方法やルールを考え出したり、創り出すような取組を促進・推進する。

効率的な練習方法は？
みんなが参加できるルールは？
私の生活でスポーツを取り入れるには？
団体の経営力を高めるには？



見直し
組み合わせ
開発
...



◆ 多様な主体が参加できるスポーツの機会創出

- 性別、年齢、障害の有無等に関係なく、多様な主体それぞれがスポーツに参画できる環境の構築等
- 教員も含めた指導者の養成や、体育の授業等の運動に親しむ機会のさらなる充実
- 子供たちが参加する大会の在り方の不断の見直し など

◆ 自主性・自律性を促せるような指導ができる質の高いスポーツ指導者の育成

- 公認スポーツ指導者制度（（公財）日本スポーツ協会）等の指導者講習や資格取得の充実を支援
- 暴力・不適切指導の根絶 など

◆ スポーツ界におけるDXの導入

- VR・ARや先進的なデジタル技術等を活用した、新たなスポーツ実施機会の創出、選手強化活動における分析や支援 など

2.

「あつまり、ともに、つながる」



スポーツで
誰もが「ともに」
「つながる」
楽しさを感じられる
社会

様々な人々・組織が
「あつまり」
「ともに」
スポーツの展開に
取り組む社会

様々な立場にある人々が、「ともに」活動し、「つながり」を感じながらスポーツを楽しめる社会の実現を目指し、機運を醸成する。また、スポーツの機会の提供や社会経済の活性化にあたり、様々な人々・組織が「あつまり」、「ともに」課題の解決等に取り組む。

◆ スポーツを通じた共生社会の実現

- 施設の整備やプログラムの提供、啓発活動等を通じて、様々な立場・状況の人が「あつまり、「ともに」スポーツを楽しめる環境を構築 など

◆ スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力を通じた我が国のスポーツ体制の強化

- スポーツ団体のガバナンス・経営力強化を図るための経営人材の育成やネットワークの構築
- 国、地方公共団体の様々な部局、スポーツ団体、企業、保険者等の関係機関・団体等の取組の一体的な連携 など

◆ スポーツを通じた国際交流

- スポーツ分野の政府間国際協力の推進、国際スポーツ界への意思決定の参画、日本のスポーツの魅力発信 など

3.

「誰もがアクセスできる」



年齢、性別、障害、経済・地域事情の差にかかわらず誰もがスポーツに参画

誰もがスポーツに参画し、スポーツの価値を体感できるような社会を実現するために、その前提として、年齢や性別、障害、経済的事情、地域事情の差等によって、スポーツに取り組むことを諦めたり、途中で理不尽・非合理に離れないような社会の実現や機運の醸成を図る。

◆ 地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供

- 総合型地域スポーツクラブの体制強化・役割の拡大等を通じた地域スポーツ環境の構築
- オープンスペース等のスポーツができる場の創出、スポーツ施設のユニバーサルデザイン化の推進 など

◆ アスリート育成パスウェイの構築及びスポーツ医・科学、情報等による支援の充実

- オリンピック・パラリンピック競技とともに、アスリートの発掘・育成・強化までを一貫して行うNFにおけるパスウェイの構築の支援
- 全国のアスリートがスポーツ医・科学、情報等によるサポートを受けられるよう、関係機関の連携強化や人材育成等の促進 など

◆ 本人が望まない理由でスポーツを途中であきらめることがないような継続的なアクセスの確保

- 本人の希望によらず、けが・障害や不適切な指導などの理由でスポーツの機会を失うことがないよう、スポーツ実施者の安全・安心を確保 など

今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1. 多様な主体におけるスポーツの機会創出 | 7. スポーツによる地方創生、まちづくり |
| 2. スポーツ界におけるDXの推進 | 8. スポーツを通じた共生社会の実現 |
| 3. 国際競技力の向上 | 9. 担い手となるスポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化 |
| 4. スポーツの国際交流・協力 | 10. スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」 |
| 5. スポーツによる健康増進 | 11. スポーツを実施する者の安全・安心の確保 |
| 6. スポーツの成長産業化 | 12. スポーツ・インテグリティの確保 |

1. 多様な主体におけるスポーツの機会創出

【政策目標】

国民のスポーツ実施率を向上させ、日々の生活の中で一人一人がスポーツの価値を享受できる社会を構築する。

① 広く国民一般に向けたスポーツを実施する機会の創出

【現状】

- ・成人の週1回以上のスポーツ実施率は56.4%（障害者は31.0%）（令和3年度）
- ・成人のスポーツ非実施者（過去1年間に1度もスポーツを実施していない者）の割合は、18.0%（障害者は41.3%）（令和3年度）
- ・成人の1回30分以上の運動を週2日以上、1年以上実施している者の割合は男性が33.4%、女性が25.1%（令和元年度）
- ・スポーツを行う理由は、健康、体力増進・維持、楽しみ・気晴らし、運動不足を感じるから等がある。
- ・スポーツ実施を阻害する要因は、仕事や家事が忙しいから、面倒くさいから、年をとったから等世代によって異なる。

【今後の施策目標】

- 成人の週1回以上のスポーツ実施率が70%（障害者は40%）になることを目指す。
- 成人の年1回以上のスポーツ実施率が100%に近づくこと（障害者は70%程度になること）を目指す。
- 1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上実施し、1年以上継続している運動習慣者の割合の増加。

【主な具体的施策】



Sport in Lifeコンソーシアムを通じ、関係機関・団体等の連携と、国民のスポーツ実施促進に係る取組を推進。



「楽しさ」や「喜び」といったスポーツの価値を認識する人を増やすことを目指す。



多様な主体がスポーツを楽しむために、スポーツを「つくる/はぐくむ」ことができるように支援する。

② 学校や地域における子供・若者のスポーツ機会の充実と体力の向上

【現状】

- ・令和3年10月、「運動部活動の地域移行に関する検討会議」をスポーツ庁に設置し、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」で示した方針の具体化に向けて検討に着手したところであり、令和5年度からの休日の部活動の段階的移行が各地で着実に進められるよう、令和4年の可能な限り早期に提言を取りまとめることを予定している。
- ・令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査からは、新型コロナウイルスの感染拡大によって、令和元年度末から児童生徒を取り巻く環境が一変した結果、全国的に、子供の体力レベルの低下傾向が進む状況が明らかとなった。
- ・運動時間は小・中学生とともに平成29年度をピークに減少で、運動をする子供としない子供で二極化が続いており、運動やスポーツをすることが好きな子供は中学校で減少する傾向にある。

【今後の施策目標】

- 「運動部活動の地域移行に関する検討会議」で提言された改革の方向性・方策に基づき、運動部活動改革を着実に推進する。
- 体育の授業等を通じて、運動好きな子供や日常から運動に親しむ子供を増加させ、生涯にわたって運動やスポーツを継続し、心身共に健康で幸福な生活を営むことができる資質や能力の育成を図る。
→運動時間の増加、卒業後も運動やスポーツをしたいと思う子供の増加、体力合計点の向上

【主な具体的施策】



中学校部活動の運営主体の地域への移行の着実な実施



総合型クラブ育成、学校開放の推進による地域スポーツ環境の整備充実



教員研修、指導の手引き、ICT活用を通じた体育・保健体育授業の充実



保護者等への普及啓発・運動遊び機会の充実による幼児期からの運動習慣形成

③ 女性、障害者、働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上

【現状】

- ・女性のスポーツ実施率は男性に比べて低く、若年女性はスポーツ嫌い等の理由により、スポーツ実施時間が短い傾向にある。
- ・女性については、運動不足や極端な痩せに伴う骨粗しょう症や妊娠中・産後の心身の健康悪化等の健康課題が顕在化している。
- ・成人の障害者の週1回以上のスポーツ実施率は31.0%（令和3年度）と、成人一般の56.4%と比べると大きな隔たりがある。また、若年層（7～19歳）の障害者の週1回以上のスポーツ実施率は41.8%（同）となっている。
- ・障害者で過去1年に1回もスポーツを実施していない者の割合は、成人で41.3%（令和3年度）、若年層で26.9%（同）となっている。
- ・年代別のスポーツ実施率は、働く世代・子育て世代の20～50代で落ち込む傾向がある。また、テレワークの浸透等による運動不足やそれを一因とする耐糖能異常、脂質異常、高血圧、肥満等の生活習慣病、外出制限等によるメンタルヘルスの不調の課題が増加している。

【今後の施策目標】

- 普及啓発・環境整備を促進し、女性のスポーツ実施率の向上を目指す。
- 障害者スポーツの実施環境整備・理解啓発により、障害者のスポーツ実施率の向上を目指す。
- 気軽にスポーツに取り組める環境づくりの推進や、従業員の健康づくりにスポーツを活用する民間事業者を支援することで、働く世代・子育て世代のスポーツ実施率向上を目指す。

【主な具体的施策】



女性のスポーツ実施意欲を向上させる取組や女性がスポーツを実施しやすい環境の整備を行う。



地域課題に応じた障害者のスポーツ実施環境の整備、障害者スポーツ用具の整備・利用促進、魅力発信等を通じた非実施層の減少を図る。



働く世代・子育て世代に対して、通勤時間や休憩時間等を活用した運動・スポーツ実施を促進する。

④ 大学スポーツ振興

【現状】

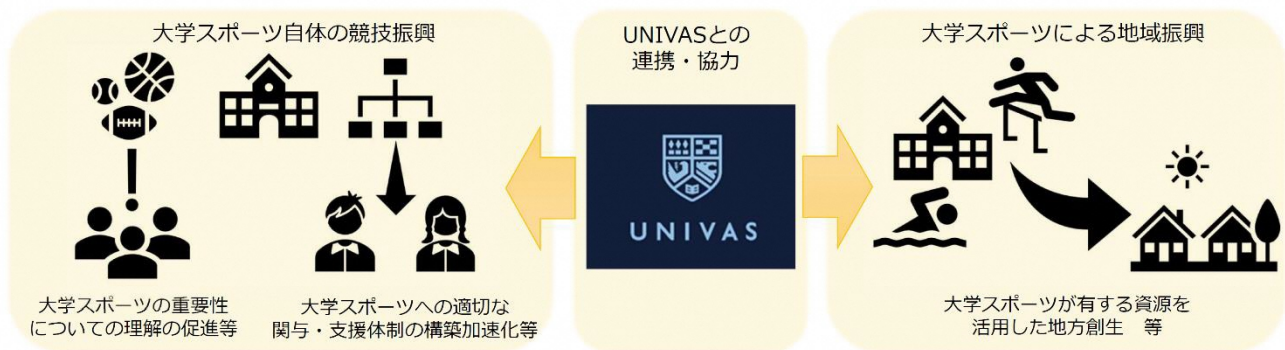
「大学スポーツの振興に関する検討会議最終とりまとめ」（平成 29 年 3 月文部科学省）の提言等に基づき、以下のような施策を推進・実施してきているところ。

- ・大学スポーツアドミニストレーター（SA）の配置に取り組む大学をモデル的に支援し、SAの配置数は増加した。他方で、全国的にみると、大学スポーツに対して全学的に適切に関与する体制が整ったとは言えない状況にある。
- ・「大学スポーツによる地域振興」等に取り組む大学をモデル的に支援し、全学的な取組を推進した。他方、事例数がまだ少なく、個々の取組においても深化が必要な状況である。
- ・大学横断的かつ競技横断的な大学スポーツの全国統括団体の創設を推進し、平成 31年 3月に独立した民間団体として（一社）大学スポーツ協会（UNIVAS）が設立され、大学スポーツ振興に向けた国内体制が構築された。新型コロナウイルスの影響により思うように成果を出せない状況が続いていたが、最近具体的な成果を出し始めており、今後さらに、国と連携・協力して、具体的な成果を上げていくことが期待されている。

【今後の施策目標】

○ UNIVASと一層連携・協力して、「する」「みる」「ささえる」といった面で大学スポーツ自体の競技振興を図るとともに、大学スポーツによる地域振興を促進し、「感動する大学スポーツ」の実現を目指す。その結果として、UNIVASの認知度及び大学スポーツへの関心度の向上を目指す。

【主な具体的施策】



2. スポーツ界におけるDXの推進

【政策目標】

スポーツ界においてDXを導入することで、様々なスポーツに関する知見や機会を国民・社会に広く提供することを可能とし、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の実効性を高める。

① 先進技術・ビッグデータを活用したスポーツ実施の在り方の拡大

【現状】

- ・IT化の進展の中、新型コロナウイルスのまん延による外出自粛の影響も受け、デジタル環境・データ環境の整備が急速に進展するとともに、屋内でできる活動に対する需要が高まった。

【今後の施策目標】

- 国民のスポーツの実施において、デジタル技術の活用を促進する。

【主な具体的施策】

地域で孤立している人や健康上等の理由で外出が困難な人等、多様な主体が平等にスポーツを実施できるよう、デジタル技術を活用する。

(注)日本スポーツ振興センター 提供

AI、VR等の先端技術を活用した支援手法を含む、スポーツ医・科学等の研究の推進

(注)日本スポーツ振興センター 提供

スポーツに係るデータの集約・解析や、様々な課題への活用等を実施するための体制づくり

② デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの創出

【現状】

- デジタル技術及びそれによって得られた各種データを活用することによって、スポーツ観戦を中心とする分野におけるエンターテインメント性の向上、する分野における新たなスポーツの創造、教える分野における教授法の改革等が進展しつつある。
- DXによるスポーツの価値向上、さらには、それによる新たなビジネスモデル展開等への期待は高まっているが、いまだ大きな進展は見られない。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大により、関係者による取組が積極的には行われにくい状況が続いている。

【今後の施策目標】

- デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの創出を推進する。

【主な具体的施策】



デジタル技術を活用したビジネスモデルの優良事例の収集・横展開、事業者への表彰



競技者同士が場所や時間を気にすることなくスポーツを楽しむことができる取組を支援



デジタル技術の活用やデータ分析等によるビジネスモデルを創出できる人材の育成・拡大

3. 国際競技力の向上

(※) 計画本文の記載から要約したもの

【政策目標 (※)】

我が国のアスリートがひたむきに努力し、試合で躍動する姿は、国民の誇りや感動につながり、国に活力をもたらすものであることから、関係機関と連携し、中央競技団体（NF）が行う競技力向上を支援する。そうした取組を通じ、オリンピック・パラリンピック競技大会等を含む主要国際大会において、過去最高水準の金メダル獲得数、メダル獲得総数、入賞数及びメダル獲得競技数等の実現を図る。

- ① 中長期の強化戦略に基づく競技力向上を支援するシステムの確立

【現状】

- N Fが策定する中長期の強化戦略プランの実効化支援等について、今後も、必要な改善を加えながら取組を継続することが必要。
- 選手強化活動や競技普及などにおいて、競技特性を踏まえつつ、オリ・パラのN Fが連携した取組を更に進めることが必要。
- 女性アスリートが健康に競技を継続できるよう、必要な支援や環境づくり、選手自身・関係者への意識啓発を更に進めることが必要。

【今後の施策目標】 (※)

- N Fの強化戦略プランの実効化を継続的に支援するほか、N Fが自立して活動するための組織基盤の強化、強化責任者や指導者・スタッフ等の人材の育成・配置、女性アスリートの活躍のための環境整備等に取り組み、オリ・パラのN Fの更なる連携を促進しながら、国際競技力向上の基盤を確立する。

【主な具体的施策】



協働コンサルテーションの実施等、PDCAサイクルの各段階で支援強化責任者や指導者・スタッフ等の育成・配置を支援



選手強化活動や競技大会の開催、競技の普及、企業等との協働などにおいてオリ・パラのNFが連携



女性アスリートの活躍のため、相談体制の充実や、出産育児等への支援体制を整備
女性エリートコーチを育成・配置

② アスリート育成パスウェイの構築

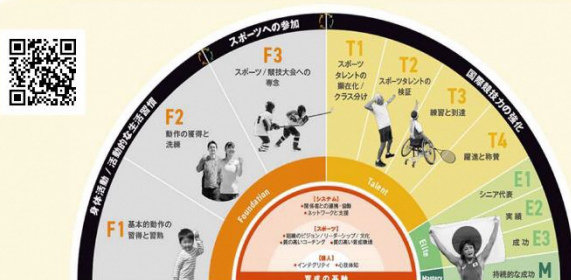
【現状】

- ・国、地方公共団体、競技団体等が行うアスリートの発掘・育成・強化に関する取組を有機的に連携させ、アスリートが競技開始からトップレベルに至るまでの道筋(アスリート育成パスウェイ)の整備を進めることが必要。
- ・アスリートの発掘については、オリ競技は、育成・強化につながるような発掘となるよう、改善を図ることが必要。他方、パラ競技においては、これまで実施してきたジャパン・ライジング・スタープロジェクト等について、継続的な改善を図りつつ、引き続き実施していくことが必要。

【今後の施策目標】

- NFにおけるアスリート育成パスウェイの構築等を通じた、中長期の戦略的な発展・育成・強化の取組により、世界で活躍するトップアスリートを継続的に輩出する。

【主な具体的施策】



「日本版FTEM」等を活用し、各NFが発掘から育成・強化までを一貫して行うアスリート育成パスウェイを構築・支援
(出典：JSCホームページ(日本版FTEMとは?))



アスリートの適性や競技特性を考慮した将来有望なアスリートの発掘を行い、育成・強化と一貫した取組となるよう支援

③ スポーツ医・科学、情報等による多面的で高度な支援の充実

【現状】

- ・ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)の機能強化やスポーツ医・科学、情報等による支援を実施してきたが、国際的にも革新的な技術を活用したデータ収集・分析が進む中で、アスリート支援の一層の高度化・充実が必要。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大によりNFの選手強化活動が制約を受け、これに対応した経験も踏まえ、安定して継続的に選手強化活動ができる環境整備が必要。

【今後の施策目標】

- スポーツ医・科学等の分野の研究を推進し、得られた知見の活用により、HPSCや地域の関係機関におけるアスリートへのスポーツ医・科学、情報等によるサポートの一層の充実を図る。併せて、デジタル技術の活用等により、継続的に選手強化活動を行うことができる環境を整備する。

【主な具体的施策】



情報収集・データ分析の充実、競技用具等に関する研究の実施など、中核的な拠点としてHPSCの機能を強化



スキー(ジャンプ)強化拠点：札幌市ジャンプ競技場(大倉山、雪の森)
セーリング強化拠点：和歌山マリナーズ・ディンギーマリーナ

NTC競技別強化拠点について、機能強化ディレクターの配置拡充等を通じ、スポーツ医・科学、情報等によるサポートを充実



大学等とHPSCとの連携による先進的なスポーツ医・科学研究や、若手研究者の育成を推進

④ 地域における競技力向上を支える体制の構築

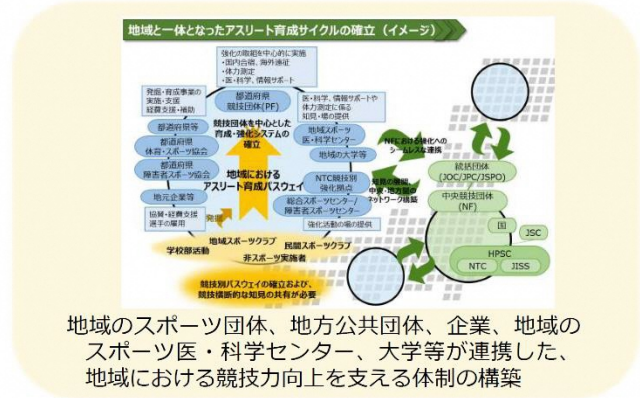
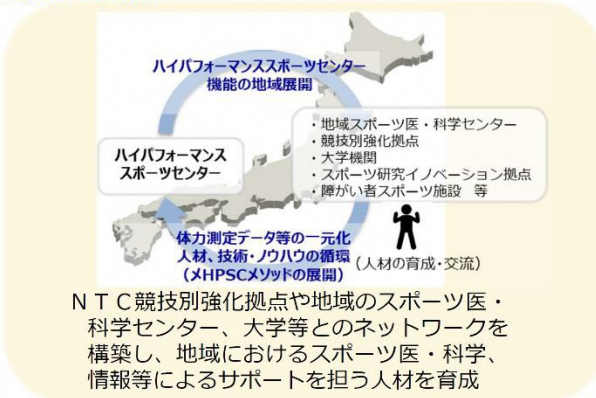
【現状】

- ・ ハイパフォーマンススポーツに関するH P S C等の知見を、全国のアスリートの発掘・育成・強化の実践において活用できるよう、地域に還元していくことが必要。
- ・ 世界で活躍するトップアスリートを継続的に輩出するためには、地域における競技力向上を支える体制の構築を進め、これをN Fによるアスリートの育成・強化につなげる仕組みづくりが必要。

【今後の施策目標】

- H P S C、N T C競技別強化拠点、地域のスポーツ医・科学センターや大学等の連携を更に強化し、H P S C等に蓄積された知見の地域・社会への還元を図るとともに、地域における競技力向上を支える体制を整備する。

【主な具体的施策】



4. スポーツの国際交流・協力

【政策目標】

スポーツの国際交流・協力を進めることで、スポーツ界における我が国の国際的な位置づけを高めるとともに、スポーツを通じた国・地域・人々のつながりを強める。

① 国際スポーツ界への意思決定への参画

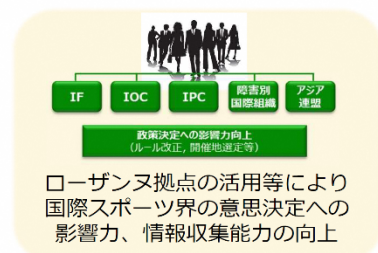
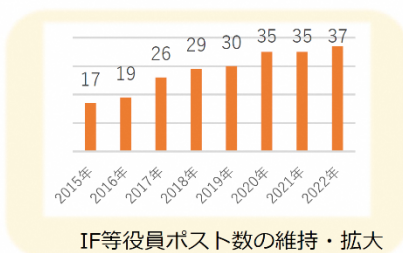
【現状】

- ・ IF等における日本人役員は、第2期計画の目標35人を達成し、東京大会に向けて日本に対する関心が高まる中で一定の成果を上げたが、依然としてIF役員ポストを多く有する国々とは差がある。N Fとして戦略的なポスト獲得に向けた活動やIFにおいて発言力を発揮できる人材育成の方策を検討する必要がある。

【今後の施策目標】

- 国際スポーツ界の意思決定や競技発展に貢献するため、IF、AF等役員ポストの維持・拡大を目指す。

【主な具体的施策】



② スポーツ産業の国際展開

【現状】

- ・ スポーツ庁、経済産業省、(独)日本貿易振興機構及びJ S Cの4者が、我が国のスポーツやスポーツ産業の国際展開を促進するための連携体制を構築した。
- ・ A S E A N等において日本の競技力や健康サービス・製品に対する関心は高いものの、スポーツ産業の国際展開が不十分である。また、国際展開の意欲が高いスポーツテック分野のスタートアップ等のベンチャー企業が、国際的に認知される機会が少ない。

【今後の施策目標】

- スポーツ産業展開を加速するための人的ネットワークの構築や情報共有のための基盤を構築する。

【主な具体的施策】



スポーツ産業の国際展開プラットフォームでの情報収集・発信



国際的な展示会や商談会等へ参加を促進



SOIPと連携し、企業や取組事例の国際展開を図る

③ スポーツを通じた国際交流・協力の推進

【現状】

- ・ M I N E P Sへの参画や日中韓、日 A S E A N間のスポーツ大臣会合を通じ、アジア地域等におけるスポーツを通じた国際協力に存在感を発揮してきた。会合の成果を踏まえ、今後も具体的な協力方を検討していく。
- ・ 令和3年9月末までに204か国・地域の約1,300万人にスポーツの価値を届けたS F T事業により、オリ・パラ・ムーブメントを推進した。この成果を踏まえ、S F T事業の在り方を検討することが必要。
- ・ スポーツを通じた国際交流は、国際的な相互理解を図るために有効であり、青少年を含むスポーツに携わる人材の目を世界に向けさせることが重要。

【今後の施策目標】

- スポーツを通じた国際交流・協力による、日本のプレゼンスの維持・向上
- ポストSFT事業を通じて世界中の国々の700万人の人々への裨益を目標に事業を推進

【主な具体的施策】



スポーツ大臣会合等を通じた日本の存在感の発揮



二国間スポーツ協力覚書の締結等による国家間の協力強化



スポーツを通じた様々な分野での国際交流・協力事業の実施

④ 国際競技大会の招致・開催に対する支援

【現状】

- ・ 今後我が国では、第19回FINA世界水泳選手権2022福岡大会や第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）、ワールドマスターズゲームズ関西等の大規模国際競技大会が開催される予定である。また、札幌市とJOCが2030年の札幌冬季五輪の招致を立候補し、IOCと継続的に対話が行われている。
- ・ 国際競技大会の招致や開催に当たっては、これまでの大会運営のノウハウを活用しつつ、地域の活性化や世界規模の課題解決への貢献、また、持続可能性の観点でより多くの人々へスポーツの価値を通じたビジョンやコンセプトを国民に届けることが重要。
- ・ また、自治体が持続可能な形で国際大会を開催できるようにしていく必要がある。

【今後の施策目標】

- 国際競技大会の開催を支援することで、我が国の国際競技力向上、国際交流・協力や経済・地域の活性化等に寄与する。

【主な具体的施策】



国際競技大会の招致
(第19回FINA世界水泳選手権
2022福岡大会招致決定の様子)



国際競技大会の開催
(ラグビーワールドカップ2019
日本大会開会式の様子)



大会開催を地域の持続可能性
につなげる取組
(愛知県及び名古屋市の取組)

⑤ オリ・パラ教育の知見・経験等をいかした教育活動の展開

【現状】

- ・ 東京大会に向けて作成されたオリ・パラ教育教材が蓄積されている。また、大会に参加したアスリートと児童生徒との国際交流も含む交流活動等が進められるなど、大会のレガシーをいかした特色ある教育活動が進められている。

【今後の施策目標】

- 東京大会における知見・経験をレガシーとしていかしつつ、アスリートと児童生徒との交流など、スポーツを通じて展開される特色ある教育活動を推進する。

【主な具体的施策】



室伏長官とパラ自転車競技杉浦選手
によるオリパラ教育実践



オンラインによる交流活動

各自治体における
特色あるオリパラ
教育実践事例を
とりまとめ、
スポーツ庁ホーム
ページへ掲載。



5. スポーツによる健康増進

【政策目標】

地域住民の多様な健康状態やニーズに応じて、関係省庁で連携しつつ、スポーツを通じた健康増進により健康長寿社会の実現を目指す。また、健康寿命の延伸に、スポーツ実施率の向上を通じて貢献する。

① 健康増進に資するスポーツに関する研究の充実・調査研究成果の利用促進

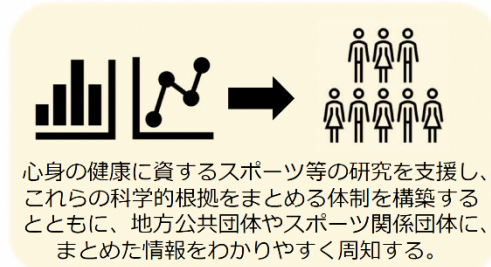
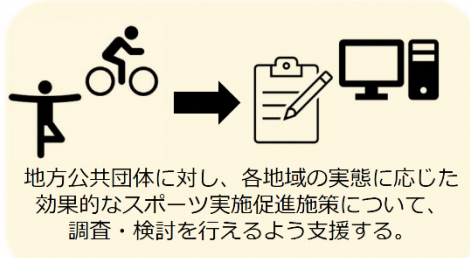
【現状】

- ・スポーツによる健康増進に関するエビデンスは蓄積されてきているが、それらをまとめて、活用するための体制が整備されていない。
- ・健康診断においては有所見でも、自己認識としては健康と認識している人も多い現状が見られるが、健康であると自己認識している人については、健康のためにスポーツをしようと思う人は少ないとの指摘がある。

【今後の施策目標】

- **スポーツと健康の関係やスポーツ実施促進の効果的な方法等についての科学的知見を蓄積し、その蓄積の普及・活用を通じてスポーツを通じた健康増進を図る。**

【主な具体的施策】



② 医療・介護、民間事業者・保険者との連携を含む、スポーツによる健康増進の促進

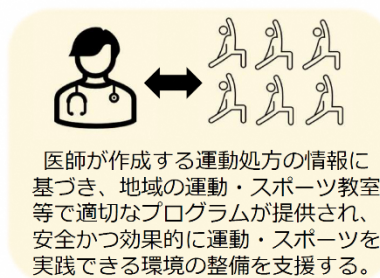
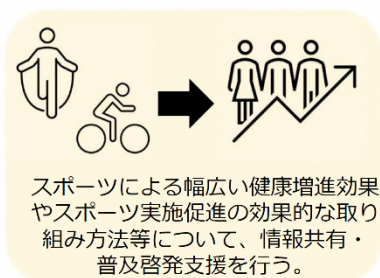
【現状】

- ・国民医療費が年間40兆円を超える規模となり、高齢化等によりその更なる拡大が予想される中、スポーツによる医療費抑制に係る研究成果は数多く報告されており、スポーツによる健康増進に対する期待が高まっている。
- ・スポーツによる健康増進の効果についての各種事業における好事例等の成果物の利活用や効果的な情報発信、好事例の横展開が不足している。
- ・健康のためのスポーツ促進にあたって、医療・介護とスポーツの連携や行政内部部局間の連携に課題がある。

【今後の施策目標】

- **科学的根拠に基づいた安全かつ効果的なスポーツの習慣化を促進することで、住民の健康増進を図る。**
- **行政内部部局間の連携や医療・介護とスポーツの連携を促進し、医療・介護の場からスポーツの場へと誘導する仕組みを構築する。**

【主な具体的施策】



6. スポーツの成長産業化

【政策目標】

スポーツ市場を拡大し、その収益をスポーツ環境の改善に還元し、スポーツ参画人口の拡大につなげるという好循環を生み出すことにより、スポーツ市場規模 5.5兆円を2025年までに15兆円に拡大することを目指す。

【現状】

- ・ 地域密着型のプロスポーツリーグ等において、地域とともに成長しようとする活動が拡大しつつある。
- ・ 第2期計画でスポーツ市場規模を2020年までに10兆円、2025年までに15兆円とする目標を掲げており、順調に推移していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けている可能性がある。

【今後の施策目標】

- **新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けたスポーツ産業を再び活性化させるとともに、成長産業化への道筋を明確なものとする。**

【主な具体的施策】



地域経済の活性化の基盤となる
スタジアム・アリーナ施設の整備



スポーツ団体と他産業との
オープンイノベーションによる
新しいビジネスモデルの創出支援



国際市場へのスポーツコンテンツ
輸出、インバウンドの取り込み

7. スポーツによる地方創生、まちづくり

【政策目標】

全国各地で特色ある「スポーツによる地方創生、まちづくり」の取組を創出させ、スポーツを活用した地域の社会課題の解決を促進することで、スポーツが地域・社会に貢献し、競技振興への住民・国民の理解と支持を更に広げ、競技振興と地域振興の好循環を実現する。

①スポーツによる地方創生、まちづくり

【現状】

これまで国のスポーツによる地域振興施策の中心であった「スポーツツーリズム」については、各地でほう芽が見えつつあるが、この数年は新型コロナの影響等による人流抑制のために苦戦している。また、担い手である「地域スポーツコミッション」の設置数は一定水準に達しつつあるが、今後地域に求められる組織に発展していくために「質の向上」が必要である。こうした中、国は東京大会等のスポーツ・レガシーを、ツーリズムだけでなく、広くスポーツによるまちづくり（スポーツ・健康まちづくり）に活かしていくこととしている。

【今後の施策目標】

- 全国各地域が「スポーツによる地方創生、まちづくり」に取り組み、それらを将来にわたって継続させ、各地に定着させるよう、促進する。その結果として、**スポーツ・健康まちづくり**に取り組む地方公共団体の割合を2026年度末に15.6%（令和3年度）から40%とする

【主な具体的施策】



② 周辺地域の整備と調和のとれた国立スポーツ施設の民間事業化の推進

【現状】

- ・国立競技場の運営管理については、「新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議」において、東京大会後は、「民間事業への移行を図ること」とされており、新型コロナウイルスの影響も含めて民間事業者等の感触や反応等を丁寧に確認しながら民間事業への移行を着実かつ円滑に進めることが必要。
- ・新秩父宮ラグビー場（仮称）については、現在のラグビー場の歴史的経緯や東京都が策定した「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」を踏まえ、神宮外苑地区のにぎわい創出に寄与する施設となるよう整備・運営していくことが必要。

【今後の施策目標】

- 国立スポーツ施設を、地域のスポーツ拠点・まちづくりの中核的な存在の一つとなり、東京大会のレガシーとして国民に親しまれる場となるよう積極的な利活用の在り方等の検討を進める。

【主な具体的施策】



国は国立競技場の運営管理に関する民間事業化の事業スキームを構築するなど必要な取組を行う。



JSCは、国立競技場の運営管理について、周辺地域の整備と調和のとれた民間事業への移行を図る。



民間活力を活用した事業方式により新秩父宮ラグビー場（仮称）の施設整備及び運営を実施する。

8. スポーツを通じた共生社会の実現

【政策目標】

誰もが「する」「みる」「ささえる」スポーツの価値を享受し、様々な立場・状況の人と「ともに」スポーツを楽しめる環境の構築を通じ、スポーツを軸とした共生社会を実現する。

① 障害者スポーツの推進

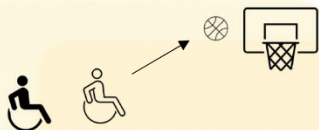
【現状】

- ・令和3年度の成人の障害者の週1回以上のスポーツ実施率は31.0%と、成人一般の56.4%と比べると依然として大きな隔りがある。
- ・車いすが体育館の床材を傷つける等の理由で、障害者スポーツの施設利用が断られる事例がある。
- ・障害者スポーツ指導者を含む障害者スポーツに係るスタッフの確保が難しい状況が見られる。
- ・一般のスポーツ推進と障害者スポーツを異なる部局が担当している場合に、両者の連携が十分でないことがあるなど、障害者スポーツの推進体制は十分ではない。さらに障害者スポーツ団体は、事務局体制や運営資金等、活動の基盤が極めてせい弱である。

【今後の施策目標】

- 障害者スポーツの実施環境を整備し、非実施層に対する関心を高めることや障害者スポーツの体験などによる一般社会に対する障害者スポーツの理解啓発に取り組むことにより、人々の意識が変わり、共生社会が実現されることを目指す。その結果、障害者のスポーツ実施率向上等を目指す。

【主な具体的施策】



障害者スポーツに係る情報発信の充実、ボランティア参加の促進等を通じ、一般社会における障害者スポーツの理解促進・障害者スポーツを体験する機会の創出を図る。



国は、障害のある人とない人が一緒にスポーツを行えるよう、パラ教育の事例の収集や一般のスポーツ施策と障害者スポーツ施策の連携を推進する。



一般のスポーツ推進と障害者スポーツの推進をあいまって行う観点から、一般のスポーツ推進体制との連携等による障害者スポーツの推進体制の整備等を図る。

② スポーツを通じた女性の活躍促進

【現状】

- ・女性のスポーツ実施率は男性に比べて低く、若年女性はスポーツ嫌いにより、スポーツ実施時間が短い傾向にある。
- ・N Fに登録されているスポーツ指導者における女性の割合は、令和2年度時点で約22%にとどまっており、男性と比較して低い現状にある。
- ・スポーツ団体における女性理事の割合は、ガバナンスコード（N F向け）において目標値が40%のところ、令和3年度時点で約23.4%にとどまっている。

【今後の施策目標】

- 普及啓発・環境整備を促進し、女性のスポーツ実施率の向上を目指す。
- ガバナンスコード（N F向け）及び「第5次男女共同参画基本計画」を踏まえ、スポーツ団体における女性理事の割合を、目標値である40%に近づけるよう促す。
- 主にASEAN諸国を対象として、スポーツ実施率向上を含めた女性のスポーツに対する持続的協力を推進し、その成果の国内還元により、人材育成を含めた国内の女性スポーツの発展につなげる。

【主な具体的施策】



女性のスポーツ実施意欲を向上させる取組や女性がスポーツを実施しやすい環境の整備を行う。



スポーツ団体と女性役員候補者のマッチングモデルの形成、団体内部における女性役員候補者の育成支援



日ASEANスポーツ大臣等における優先協力分野として女性スポーツの発展に向けた人材育成等に取り組む。

9. 担い手となるスポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化

【政策目標】

スポーツの機会提供等の主要な担い手となるスポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化を図ることで、国民がスポーツに関わる機会の安定的な確保に資する。

【現状】

- ・JSCや統括団体により、スポーツ団体に対するガバナンス・コンプライアンス研修等が実施されてきたが、団体が自主的・自律的なガバナンス改革を実行するために、引き続き研修等を実施する必要がある。
- ・団体の経営力強化について、戦略的な経営を行うための人的資源と知見を補充する組織体制の拡充や、経営力強化に係るノウハウが競技を超えて共有蓄積されていくような仕組みを構築する必要がある。

【今後の施策目標】

- ガバナンス・コンプライアンス研修等を通じてスポーツ団体の組織運営の透明化を図りつつ、収益拡大に向けた団体間の情報共有や外部人材の雇用創出等の支援により、戦略的な経営を行う組織体制の拡充を図る。

【主な具体的施策】



ガバナンス・コンプライアンスに関する研修等の実施



スポーツ団体の情報連携の促進、戦略的な経営等を行う人材育成や雇用創出を支援

10. スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」

【政策目標】

国民がスポーツに親しむうえで不可欠となる「ハード（場づくり）」「ソフト（環境の構築）」「人材」といった基盤を確保・強化するため、場づくりや環境の構築、スポーツに関わる人材の育成等を進める。

① 地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」の実現

【現状】

- ・公立スポーツ施設について、ガイドラインや先進事例の情報提供等を通じて、地方公共団体が行う老朽化対策や再整備等に関する個別施設計画の策定を促進し、一定程度策定を完了。学校体育施設の有効活用等について、手引きの策定やモデル事業の実施等を通じて促進。
- ・一方で、社会経済の変化に伴う住民ニーズ（量・質）の変化に応じた計画的なストックマネジメントの下で、地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しむことができる場の量的、質的な充実がなお一層求められている。

【今後の施策目標】

- スtock適正化の下、既存施設の有効活用やオープンスペース等のスポーツ施設以外のスポーツができる場の創出、性別、年齢、能力等にかかわらず誰もがスポーツを行いやすくするユニバーサルデザイン化の推進等により、安全で持続可能な地域スポーツ環境の量的・質的充実を図る。

【主な具体的施策】



【スポーツ施設の全体最適化】
地方公共団体のスポーツ施設に関する計画の内容充実・着実な実行



【「量」的充実】
学校体育施設やオープンスペース等の多様な空間の有効活用



【「質」的充実】
ユニバーサルデザイン化や民間の資金・ノウハウの活用等の推進

② 地域のスポーツ環境の構築

【現状】

- ・地域のスポーツ環境の担い手となる行政、体育協会、競技団体、学校、スポーツクラブ等の関係団体の連携や、教育、医療、介護、福祉等スポーツに関係する行政の各部署同士の連携を図る必要がある。
- ・地域スポーツコミッションなど既存の地域連携組織の活用を図る必要がある。
- ・総合型地域スポーツクラブ（総合型クラブ）については運営体制の強化や行政との連携が課題となっており、スポーツ少年団は年々減少するなど、地域で様々な住民が一人一人のニーズに合わせたスポーツをするための場、プログラム、指導者等の環境の充実が必要である。

【今後の施策目標】

- スポーツに係る地域の団体や人材の連携促進により、地域の資源を最大限活用し、スポーツの場、プログラム、指導者等の充実を図る。
- 総合型クラブやスポーツ少年団の体制強化や役割の拡大により、より幅広いニーズに応えられる地域スポーツ環境を構築する。
- 地域のスポーツ環境に係る施設の活用促進や情報の見える化により、住民と各自のニーズに合ったスポーツの場とのマッチングを促進する。

【主な具体的施策】



関係団体の連携体制を構築できるよう支援するとともに、地方公共団体内部におけるスポーツ関係部局の連携を促進する。



総合型クラブの登録・認証制度を47都道府県で運用開始し、当該制度を通じて、総合型クラブの質的な向上を図る。



スポーツ少年団では幼年層から中学生・高校生の年代までを主な対象とし、子どもの発育発達に配慮したスポーツ活動を行うことを推進する。

③ スポーツに関わる人材の育成と活躍の場の確保

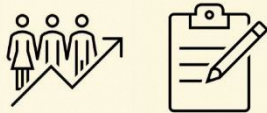
【現状】

- ・スポーツ競技・団体ごとに、必要とされる人材の種類、その規模、育成・確保の進捗等は大きく異なり、その方針は各NFの策定する計画等に一部記載されている。
- ・各スポーツ団体、企業、チーム等によるアスリートのキャリア形成支援についての取組の好事例がスポーツ界全体に幅広く浸透しておらず、アスリートが地域や職場での運動指導、スポーツの価値を伝える活動に関わる機会も不足している。
- ・資格を保有しない指導者が多く、公認スポーツ指導者資格も十分に普及していない。

【今後の施策目標】

- 各スポーツ団体等が人材育成及び活用に関する方針・計画を自ら定め、実行していくことを推進する。
- 現役時のアスリートへ効果的にキャリア形成支援を行う支援者の不足等の課題を踏まえ、新たな取組を含め、アスリートのキャリア形成支援を着実に促進する。
- 多様なスポーツニーズに対応した質の高い指導者の養成を支援する。

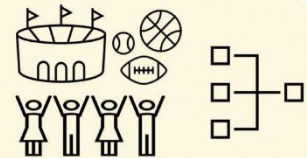
【主な具体的施策】



全てのNFが人材育成及び活用に関する計画を策定



引退したアスリートが運動指導や教育活動等に関わる機会を拡大



全ての人がスポーツを実施できる環境整備、指導者の公認資格の取得拡大に向けた制度設計

1 1 . スポーツを実施する者の安全・安心の確保

【政策目標】

スポーツを実施する者が、本人の希望しない理由等でスポーツから離れたり、スポーツに親しむ機会を奪われないよう、スポーツを実施する者の心身の安全・安心を確保する。

- ① スポーツ指導における暴力・虐待等の根絶
- ② アスリートに対する誹謗中傷・写真や動画による性的ハラスメントの防止
- ③ スポーツ事故・スポーツ障害の防止

【現状】

- ・各スポーツ団体で暴力・虐待等の根絶に向けた取組が行われているが、その内容において団体ごとの差が大きい。
- ・アスリートに対するSNS等での誹謗中傷や写真・動画による性的ハラスメントが、スポーツ界全体として問題となっている。
- ・体育活動中の死亡事故を含む重大事故は、減少傾向にあるものの、依然として一定程度発生している状況にある。

【今後の施策目標】

- スポーツ分野におけるあらゆる暴力・不適切指導等の根絶を図る。
- 関係省庁や団体等と連携して対処し、アスリートが安心してスポーツに取り組める環境づくりを進める。
- 多様な国民一人一人が安全・安心に、楽しくスポーツを実施できるような環境を整備する。

【主な具体的施策】



暴力等がなく、アスリート等の人的成長を促す指導者を養成



事故事例の情報提供と研修充実

12. スポーツ・インテグリティの確保

【政策目標】

我が国のスポーツ・インテグリティを高め、クリーンでフェアなスポーツの推進に一体的に取り組むことで、国民・社会がスポーツの価値を十分に享受できるような取組を進める。

- ①スポーツ団体のガバナンス強化・コンプライアンスの徹底
- ②紛争解決制度の整備

【現状】

- ・ ガバナンスコードに基づき、統括団体がNFに対して行う適合性審査が令和2年度から開始され、スポーツ団体におけるガバナンス強化・コンプライアンス徹底に関する意識は一定程度醸成されたものの、適合性審査の仕組みがない一般団体の意識づけが弱い。
- ・ 適合性審査については、その在り方を含め、実施の過程で浮き彫りとなった課題等に対応する必要がある。
- ・ スポーツ仲裁・調停制度に関するスポーツ団体やアスリート等の理解が進んでおらず、十分な制度の活用がされていない。

【今後の施策目標】

- **スポーツ関係者のコンプライアンス違反や体罰、暴力等の根絶を目指すとともに、スポーツ団体のガバナンスを強化し、組織運営の透明化を図る。**
- **スポーツ仲裁・調停制度の理解増進を図るとともに、紛争解決制度の整備を行う。**

【主な具体的施策】



一般スポーツ団体に対するガバナンスコードの普及



暴力等の根絶に向けた相談窓口の更なる普及



スポーツ仲裁の自動応諾条項の採択の拡充等による紛争の迅速かつ適正な解決の促進

- ③ ドーピング防止活動の推進

【現状】

- ・ 東京大会等に向けて育成したドーピング検査員や、構築した国内外の人的・組織的ネットワーク等を東京大会のレガシーとして、国内外の活動において有効活用していくことが必要。
- ・ 国際的なドーピング防止活動に貢献するため、国内外の関係機関と連携していく必要がある。
- ・ 東京大会の成果や知見を踏まえ、血液ドーピングや遺伝子ドーピング等の巧妙で高度化するドーピングに対応した情報共有体制や分析体制を継続的に検討していくことが必要。
- ・ WADAの「教育に関する国際基準」に沿って対象者に応じた教育プログラムを実施する必要がある。また、教材の内容や提供方法等について、アスリートの意見を反映した教育プログラムにする必要がある。
- ・ ドーピング防止に貢献する研究ニーズに対応した研究開発を計画的に実施し、成果創出できるように支援する必要がある。

【今後の施策目標】

- **WADAへの参画を通じて、また我が国の知見等を活かし、国際的なドーピング防止活動に貢献する。**
- **東京大会に向けて育成してきたドーピング検査員の資質向上及び国際大会における活躍を推進する。**
- **国内の関係機関と協力・連携を図り、ドーピング防止活動に対する知識水準を維持・向上させる。**
- **ドーピングの防止に関する最先端研究を推進する。**

【主な具体的施策（一部抜粋）】



国際的なドーピング防止活動に貢献



ドーピング防止教育の国際展開



医療従事者への情報提供

2. 都の計画(東京都スポーツ推進総合計画 平成 30 年 3 月)

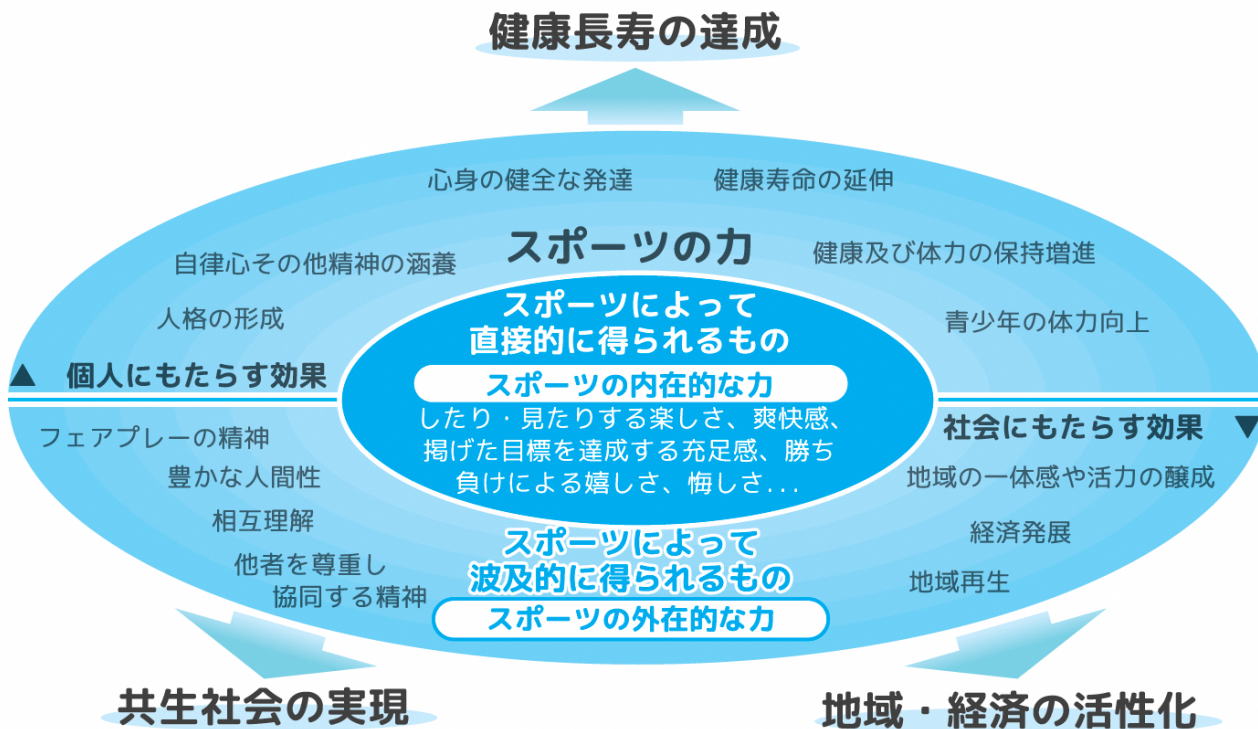
- ・スポーツの取り巻く以下の8つの環境の変化を踏まえ「スポーツの力で東京の未来を創る」の基本理念と、スポーツを通じた「健康寿命の達成」「共生社会の実現」「地域・経済の活性化」という3つの政策目標が掲げられている。

スポーツを取り巻く環境の変化

- i. 都の総人口が減少に転じていく「人口構成の変化」
- ii. 高齢者の一人暮らしが増加するなどの「家族構成の変化」
- iii. 健康寿命という考え方の誕生や医療費の増加傾向といった「健康状態の変化」
- iv. 障害者手帳交付数の増加傾向などの「障害者の状況の変化」
- v. 新体力テスト合計点からみた「体力の変化」
- vi. 働き方を見つめなおす機運が高まっている「労働の変化」
- vii. 人々の「余暇活動の変化」
- viii. 東京を中心とした数多くの国際スポーツイベントの開催や生活に身近な場所でのイベントの誕生、企業における健康経営への注目といった「社会状況の変化」

政策目標

1. スポーツを通じた健康長寿の達成
2. スポーツを通じた共生社会の実現
3. スポーツを通じた地域・経済の活性化



本計画におけるスポーツの範囲

- ・ルールに基づいて勝敗や記録を競うものだけでなく、余暇時間や仕事時間等を問わず健康を目的に行われる身体活動、更には遊びや楽しみを目的とした身体活動(相応のエネルギー消費を伴うもの)まで、幅広く捉える。



▶▶ するスポーツ

野球やサッカーといった競技スポーツ、ランニングやストレッチといったフィジカルトレーニングだけでなく、気晴らしのための散歩や、エレベータを使わずに階段を昇などの行為も計画的・継続的に実施しているものであれば、するスポーツに含まれます。



▶▶ みるスポーツ

スタジアム等でトップアスリーの競技を直接観戦することだけでなく、子供や友人が実施する競技を観戦することも含まれます。また直接観戦だけでなく、テレビやラジオ、インターネット配信等での観戦など幅広い範囲を、みるスポーツに含まれます。



▶▶ 支えるスポーツ

イベントの運営やサポートなどを行うスポーツボランティア以外にも、試合の審判や、監督、コーチのほか選手やチームを応援することも含まれます。更に企業等がスポーツ用品や用具を提供したり、スポーツイベントに協賛したりすることも、スポーツを支える活動に含まれます。

目標達成に向けた主な取組

政策目標

01

政策指針 3 ▶ スポーツを身近でできる場の確保

TOKYO ▶ スポーツ施設 サポーターズ

スポーツ施設を所有している大学や企業等と協定を締結し、都民が利用できるスポーツ施設の拡大を図ります。



政策指針 8 ▶ スポーツを支える人材の育成

▶ ボランティア活動 気運の維持・継続

大会後もボランティア活動への参加気運の着実な維持・継続を図るため、その活動が東京2020大会を支えたことを実感できるよう取組を検討するとともに、大会後も見据えた運営体制を構築します。



政策目標

02

政策指針 15 ▶ 性別に関わらないスポーツ振興

女性アスリート に対する 競技力向上支援

女性アスリート特有の競技・健康上の課題に関して、アスリート及び指導者等に正しい知識の普及と理解を促進し、競技力の向上を図ります。



政策指針 17 ▶ 誰もが気軽に観戦できるスポーツ環境の整備

東京 2020 大会 の会場の バリアフリー化

「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえた車いす席の比率やサイトラインの確保、機能別トイレの設置等を進め、より高いレベルのバリアフリー化を完了します。



政策目標

03

政策指針 21 ▶ スポーツクラスターを核とした地域の活性化

スポーツクラスター の整備と活用 (臨海地区)

東京 2020 大会に向け、新規恒久施設 6 施設を整備し、スポーツの拠点としての活用や、文化イベント等で多目的に利用するほか、施設周辺のまちづくりとの連携を進め、面的な広がりのあるレガシーの創出を図ります。



政策指針 22 ▶ 官民連携によるスポーツ気運の醸成

ラジオ体操を活用 したスポーツ実施 の促進

東京 2020 大会への気運醸成と健康増進を目的として、身近な場所でいつでもできるラジオ体操を企業や都民に普及していきます。



委員意見を踏まえたアンケート調査票修正対応案

	意見	対応(案)
野川 委員	問2の選択肢を「70 歳以上」ではなく「70 代」と「80 歳以上」に区分しては。	ご意見の通りに選択肢を区分しました。
野川 委員	問4の選択肢「勤め人」は、パートタイム・アルバイトを含むか。	選択肢にパートタイム・アルバイトを含む旨を加筆しました。
野川 委員	問5の選択肢に「答えたくない」は不要では。	ご意見の通りに選択肢を削除しました。
野川 委員	問6～8は順位尺度に並び替えるべき。	ご意見の通りに選択肢を整理しました。
佐藤 委員	「東京2020オリンピック・パラリンピック後の変化について」の質問に続けて、パラスポーツに関する設問を増やしても良いと考えました。パラスポーツは老若男女、障害の有無に関わらずできるものが沢山あります。パラスポーツをやったことがあるか、知っているパラスポーツは何か等問うことで、今後のスポーツのあり方や障害者の方に対する意識調査にも活かせるのではないかと考えています。	問9でパラスポーツの実施経験に関する選択肢を充実させました。 また、問 19に「今後新たに始めたい・体験したい運動・スポーツ」を追加し、パラスポーツをやってみたいかを回答できるようにしました。
野川 委員	問9の選択肢にストリート系や esports が抜けている。	ストリート系として「ダンス」が3、スポーツクライミング(ボルダリング等)が11、「BMX」が15、「スケートボード」が16、「3×3」は24(バスケットボールとして)を選択肢に入れています。「パルクール」については、回答数が少ないと判断したため記載していません。「アーバンスポーツ」としてまとめることも考えられますが、前回計画アンケート調査の選択肢との整合を優先しています(結果の比較を行うため)。 esports は国においてスポーツ基本法におけるスポーツと言えるか明確な判断が示されていないため、今回は選択肢に加えるべきでないと考えています。

	意見	対応(案)
中川委員	アンケート問 11 でクラブ・同好会に対して「黄金井倶楽部に所属」？となるのは？体協加盟団体種目との振分け具体化が必要では？	問 11 の選択肢に「体育協会加盟団体に所属して」を追加しました。
野川委員	問 13 の選択肢が左右対称の関係になっていない。	ご意見の通りに選択肢を整理しました。
野川委員	問 17 について、因子別に3～4グループに区分できないか。	ご意見の通りに選択肢を 11 から4に区分しました。また「トップチーム・アスリートの活躍からの触発」を加えています。
野川委員	問 18 は運動・スポーツを実施していない回答者に限定すべきでは。	ご意見の通りに設問を修正しました。
野川委員	コロナ禍に関する設問を充実すべきでは。	問 20 にスポーツを「実施する」ほか「観る」「支える」意欲の変化についても把握する設問を加えました。 問 21 にコロナ禍においても運動・スポーツを実施する理由・動機づけを把握する設問を加えました。
野川委員	「5. 小金井市のスポーツ振興の取組み」が具体的に何を指すか、市民は理解できるか。	ご意見を踏まえ「5. 小金井市のスポーツ関連事業の取組み」に修正しました。
野川委員	問 22～27について、施設とイベント等の認知度と利用頻度を確認する意味は、今後同じ内容のことを継続するという方向性ですか？	継続しつつ、認知度、利用頻度の結果によっては、改善方策の検討も行いたいと考えています。
野川委員	オリパラを同一視しての回答肢は工夫が必要と思います。特にパラスポーツや障がい者スポーツへの関心・参加行動などを特定する必要がありませんか？(多様性・共生という社会の流れで)	パラリンピックの開催による効果を伺う設問(問 30)を追加しました。
野川委員	選択肢は市が取組める、或いは取り組みたい回答肢ですか？	取組みが考えられる選択肢を網羅的に示しています。

(その他)

	意見	対応(案)
服部 委員	今回のアンケート対象人数は 1000 名程度とのことでしたが、どのような基準で選定されるのかを次回会合で確認させてください。	・ 住民基本台帳を用いた無作為抽出を想定しています。
野川 委員	調査の対象年齢を高校生まで引き下げてみてはいかがでしょうか？5 年、10 年後のことを視野に入れて。	・ 高校生を含む 16 歳以上とします。
長谷川 委員	実施期間を鑑みると今回の紙ベースによる調査方法でやむを得ないと思いますが、今後に向けデジタルで調査できる基盤整備を並行して進めたいです。	・ Web アンケートの実施を検討しています(資料7)。
木藤 委員	先日の会議では小学生や中学生のアンケートは見合わせるかもしれないとのことでしたが、これからスポーツに一番触れる機会の多い子どもたちだからこそ意見を聞くべきではないかと思います。もちろんその他の世代の調査も重要だと思いますが、自分の意見を発する機会が大人より少ないからこそ、学校でアンケートを配布してもらい、自宅で回答するなどの方法も有効ではないかと考えます。(コロナ禍の先行きが見えない中、学校の体育で試合ができない・部活動・クラブ活動がこれまでのように行えていないのが現状です。)	・ 小・中学生を対象とした web アンケートの実施を検討しています(資料8)。

小金井市 スポーツに関する意識調査 調査票 (案)

1. あなたご自身についておたずねします

問1 あなたの性別をご回答ください(あてはまるもの1つに○)。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問2 あなたの年齢をご回答ください(あてはまるもの1つに○)。

- | | | | |
|--------|--------|--------|----------|
| 1. 10代 | 3. 30代 | 5. 50代 | 7. 70代 |
| 2. 20代 | 4. 40代 | 6. 60代 | 8. 80歳以上 |

問3 あなたの居住地をご回答ください(あてはまるもの1つに○)。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|-------|----------|
| 1. 東町 | 3. 関野町 | 5. 中町 | 7. 本町 | 9. 貫井北町 |
| 2. 梶野町 | 4. 緑町 | 6. 前原町 | 8. 桜町 | 10. 貫井南町 |

問4 あなたの職業をご回答ください(あてはまるもの1つに○)。

- | | |
|-------------------------------|----------|
| 1. 勤め人(パートタイム・アルバイト含む) | 4. 主婦・主夫 |
| 2. 自営業 | 5. 学生 |
| 3. 家族従業者
(自分の家が経営する事業の手伝い) | 6. 無職 |
| 7. その他() | |

問5 あなたが現在一緒に住んでいる家族をご回答ください(あてはまるものすべてに○)。

- | | | |
|----------|---------|-----------|
| 1. 配偶者 | 4. 子ども | 7. その他() |
| 2. 父親・母親 | 5. 孫・ひ孫 | 8. ひとり暮らし |
| 3. 祖父母 | 6. 兄弟姉妹 | |

(問5で「4」「5」と答えた方に)

一番年齢の低い子ども・孫・ひ孫の成長段階をご回答ください(あてはまるもの1つに○)。

- | | | | |
|--------------|--------|-------------|--------|
| 1. 0歳～小学校入学前 | 3. 中学生 | 5. 大学生・大学院生 | 7. その他 |
| 2. 小学生 | 4. 高校生 | 6. 学校教育終了 | () |

問6 あなたは、普段のご自身の健康について、どう思いますか(あてはまるもの1つに○)。

- | | | | | |
|-------------------------|------------------|--------------|------------------|----------|
| 1. 健康である | 2. どちらかといえば健康である | 3. どちらとも言えない | 4. どちらかといえば健康でない | 5. 健康でない |
| ----- ----- ----- ----- | | | | |

問7 あなたは、普段のご自身の体力について、どう思いますか(あてはまるもの1つに○)。

- | | | | | |
|-------------------------|---------------------|--------------|---------------------|-------------|
| 1. 体力に自信がある | 2. どちらかといえば体力に自信がある | 3. どちらとも言えない | 4. どちらかといえば体力に自信がない | 5. 体力に自信がない |
| ----- ----- ----- ----- | | | | |

問8 あなたは、普段運動不足を感じますか（あてはまるもの1つに○）。

1.ほとんど (まったく) 感じない	2.あまり感じ ない	3.どちらとも 言えない	4.ある程度 感じる	5.大いに 感じる

2. あなたの運動・スポーツの実施状況についておたずねします

問9 あなたはこの1年間に以下にあげる運動・スポーツを行いましたか（あてはまるものすべてに○）。

1. 体操(ラジオ体操、職場体操、エアロビクス、縄跳び、ヨガを含む)	17. 陸上競技
2. ウォーキング(散歩などを含む)、ランニング、ジョギング	18. 柔道、剣道、空手、合気道、居合道、太極拳
3. ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、日本舞踊含む)	19. 相撲、ボクシング、レスリング
4. ボウリング	20. 弓道、アーチェリー
5. ゲートボール、グラウンドゴルフ	21. ラクロス、ホッケー
6. 水泳	22. 野球、ソフトボール
7. 室内運動器具を使ってする運動	23. サッカー、フットサル、ラグビー
8. キャッチボール、ドッジボール	24. バレーボール、バスケットボール、ハンドボール
9. スキー、スノーボード、スケート	25. テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球
10. 登山、キャンプ、オートキャンプ、ハイキング、オリエンテーリング	26. ニュースポーツ(ボッチャ、キンボール、フライングディスク、スポーツ吹き矢ほか)
11. スポーツクライミング	27. 車いすスポーツ(テニス、バスケットボール、ラグビー、陸上、卓球ほか)
12. ボート、ヨット、スキューバダイビング、カヌー、サーフィン、ほか水上スポーツ	28. ゴールボール
13. ゴルフ	29. ブラインドサッカー
14. グライダー、スカイダイビング、ハンググライダー、パラグライダー	30. シットティングバレーボール
15. サイクリング、モータースポーツ、サイクルスポーツ(BMX など)	31. オンライン等を活用したスポーツ (アプリを活用した運動・トレーニング等)
16. ローラースケート、インラインスケート、スケートボード	→具体的な内容()
	32. その他
	→具体的な内容()
	33. 運動・スポーツは行わなかった

問 10 この1年間で、あなたが運動・スポーツをした場所を多い順に3つまであげてください。

実施場所	1位	2位	3位
選択肢番号			

1. 公共のスポーツ施設(市内)	8. 公園
2. 公共のスポーツ施設(市外)	9. 公民館
3. 学校体育施設(学校の体育館・運動場等)	10. 空き地
4. 民間商業インドア施設 (フィットネス、ジム等)	11. 道路
5. 民間商業アウトドア施設 (レジャープール、ゴルフ場等)	12. 山岳・森林・海・川等の自然環境
6. 自宅または自宅敷地内	13. その他 ()
7. 職場または職場敷地内	14. わからない

問 11 この1年間の、運動・スポーツの実施形式を多い順に3つまであげてください。

実施形式	1位	2位	3位
選択肢番号			

1. 職場のクラブや同好会に所属して	8. 個人で自由に
2. 学校のクラブや同好会に所属して	9. 地域の友人と自由に
3. 同じまたは近くの市の人が加入 しているクラブや同好会に所属して ※ 黄金井倶楽部・体育協会加盟団体は除く	10. 職場の友人と自由に
4. 黄金井倶楽部に所属して	11. 地域のイベントで
5. 体育協会協会加盟団体に所属して	12. 職場のイベントで
6. 公共施設で行われているスポーツや 体力づくりの教室で	13. 家族と
7. フィットネスクラブ等の民間の会員制 スポーツクラブで	14. その他
	15. わからない

問 12 この1年間で運動・スポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか (あてはまるもの1つに○)。

1. 週に5日以上(年 251日以上)	5. 月に1～3日(年 12日～50日)
2. 週に3日以上(年 151日～250日)	6. 3か月に1～2日(年 4日～11日)
3. 週に2日以上(年 101日～150日)	7. 年に1～3日
4. 週に1日以上(年 51日～100日)	8. わからない

問 13 あなたは現在の運動・スポーツの実施頻度に満足していますか (あてはまるもの1つに○)。

1. 満足している	2. やや満足している	3. どちらとも言えない	4. やや不満である	5. 不満である

問14 1回あたりの運動・スポーツ実施時間はどの程度ですか(あてはまるもの1つに○)。

1. 15分未満	4. 1時間～2時間未満
2. 15分～30分未満	5. 2時間以上
3. 30分～60分未満	

問15 運動・スポーツを実施する時間帯はいつ頃が多いですか(あてはまるもの1つに○)。

1. 午前4時～午前8時	4. 午後6時～午後10時
2. 午前8時～正午	5. 午後10時～午前4時
3. 正午～午後6時	

問16 運動・スポーツの継続状況と今後の意向をご回答ください(あてはまるもの1つに○)。

1. 現在継続的に運動・スポーツを行っており、1年以上経過している	4. 現在運動・スポーツを行っていないが、1年以内に始めようと思っている
2. 現在継続的に運動・スポーツを行っており、始めてから1年未満である	5. 現在運動・スポーツを行っていないし、今後もするつもりはない
3. 現在運動・スポーツを行っているが、継続的ではない	6. わからない

3. 運動・スポーツに対する考え方についておたずねします

問17 以下について、あなたの運動・スポーツをする理由・動機づけになるか、ご回答ください。

	運動・スポーツをする理由・動機づけになるか (あてはまる方に○)		
1. 健康・体力づくり・ダイエット・運動不足解消	な	る	ならない
2. ストレス解消・気分転換	な	る	ならない
3. 友人・仲間との交流／交友関係の拡大	な	る	ならない
4. 自己の記録や能力の向上	な	る	ならない
5. トップチーム・アスリートの活躍からの触発	な	る	ならない

問18 この1年間に運動・スポーツを実施していない方にお伺いします。あなたが運動・スポーツをしない／できない理由として、あてはまるものをご回答ください。

	運動・スポーツをしない／できない理由になるか (あてはまる方に○)		
1. 時間的に余裕がない	な	る	ならない
2. 天気が悪い	な	る	ならない
3. 面倒くさい	な	る	ならない
4. 仕事が忙しい	な	る	ならない
5. 場所や施設がない	な	る	ならない
6. 疲れやすい	な	る	ならない
7. 仲間がいない	な	る	ならない
8. 家事・子育て・介護が忙しい	な	る	ならない
9. 年齢や病気などにより、医者や家族が勧めない	な	る	ならない
10. 運動・スポーツが嫌い・つまらない	な	る	ならない
11. 生活や仕事で十分に体を動かしている	な	る	ならない
12. 指導者がいない	な	る	ならない

問 19 あなたが今後新たに始めたい・体験したい運動・スポーツをご回答ください(あてはまるものすべてに○)。

1. 体操(ラジオ体操、職場体操、エアロビクス、縄跳び、ヨガを含む)	17. 陸上競技
2. ウォーキング(散歩などを含む)、ランニング、ジョギング	18. 柔道、剣道、空手、合気道、居合道、太極拳
3. ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、日本舞踊含む)	19. 相撲、ボクシング、レスリング
4. ボウリング	20. 弓道、アーチェリー
5. ゲートボール、グラウンドゴルフ	21. ラクロス、ホッケー
6. 水泳	22. 野球、ソフトボール
7. 室内運動器具を使ってする運動	23. サッカー、フットサル、ラグビー
8. キャッチボール、ドッジボール	24. バレーボール、バスケットボール、ハンドボール
9. スキー、スノーボード、スケート	25. テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球
10. 登山、キャンプ、オートキャンプ、ハイキング、オリエンテーリング	26. ニュースポーツ(ボッチャ、キンボール、フライングディスク、スポーツ吹き矢ほか)
11. スポーツクライミング	27. 車いすスポーツ(テニス、バスケットボール、ラグビー、陸上、卓球ほか)
12. ボート、ヨット、スキューバダイビング、カヌー、サーフィン、ほか水上スポーツ	28. ゴールボール
13. ゴルフ	29. ブラインドサッカー
14. グライダー、スカイダイビング、ハング グライダー、パラグライダー	30. シットティングバレーボール
15. サイクリング、モータースポーツ、サイ クルスポーツ(BMX など)	31. オンライン等を活用したスポーツ (アプリを活用した運動・トレーニング等)
16. ローラースケート、インラインスケート、 スケートボード	→具体的な内容()
	32. その他
	→具体的な内容()

4. 新型コロナウイルス感染症が運動・スポーツ習慣に与えた影響についておたずねします

問 20 新型コロナウイルス感染症まん延前（2019年）と比較して、現在の「運動・スポーツをする意欲」「運動・スポーツを観る意欲」「スポーツを支える(ボランティア等)意欲」は、それぞれどう変わったと感じていますか。

運動・スポーツを実施する意欲	1. 以前より高くなった	2. 以前よりやや高くなった	3. 以前と変わらない	4. 以前よりやや低くなった	5. 以前より低くなった
運動・スポーツを観る意欲	1. 以前より高くなった	2. 以前よりやや高くなった	3. 以前と変わらない	4. 以前よりやや低くなった	5. 以前より低くなった
運動・スポーツを支える(ボランティア等)意欲	1. 以前より高くなった	2. 以前よりやや高くなった	3. 以前と変わらない	4. 以前よりやや低くなった	5. 以前より低くなった

問 21 新型コロナウイルス感染症の影響下において、運動・スポーツを実施する理由・動機づけになると考えられるものをご回答ください。

	運動・スポーツをする理由・動機づけになるか (あてはまる方に○)		
1. テレワーク等の導入による余暇時間の増大	な	る	ならない
2. ストレス解消	な	る	ならない
3. 健康・体力づくりに役立つ情報の充実	な	る	ならない
4. 家でもできる運動・スポーツ情報の充実	な	る	ならない
5. オンライン形式のイベント・大会の充実	な	る	ならない
6. 施設・設備の感染対策の徹底	な	る	ならない

5. 小金井市のスポーツ関連事業の取組みについておたずねします

【市内スポーツ施設について】

問 22 以下の施設をご存じですか。

	取組みをご存じか (あてはまる方に○)		
1. 小金井市総合体育館	知っていた	／	知らなかった
2. 栗山公園健康運動センター	知っていた	／	知らなかった
3. 小金井市テニスコート場(住所：小平市)	知っていた	／	知らなかった
4. 上水公園運動施設	知っていた	／	知らなかった

問 23 市内のスポーツ施設を利用したことはありますか。また、今後利用してみたいですか。

	利用した ことがある	今後利用 してみたい	利用しない と思う
	(あてはまるものに○)		
1. 小金井市総合体育館			
2. 栗山公園健康運動センター			
3. 小金井市テニスコート場(住所：小平市)			
4. 上水公園運動施設			

【市内学校体育施設の開放について】

問 24 以下の施設の開放の取組みをご存じですか。

	取組みをご存じか (あてはまる方に○)		
1. 小・中学校での卓球・剣道・バドミントン・柔道の個人開放(本年度は緑小、前原小、本町小、一中で実施)	知っていた	/	知らなかった
2. 一中クラブハウス(談話室・柔剣道場)の開放	知っていた	/	知らなかった
3. 一中テニスコートの開放	知っていた	/	知らなかった
4. 南中学校中庭テニスコートの夜間開放	知っていた	/	知らなかった
5. 総合学院テクノスカレッジ体育館の開放	知っていた	/	知らなかった

問 25 市内学校体育施設の開放を利用したことはありますか。また、今後利用してみたいですか。

	利用した ことがある	今後利用 してみたい	利用しない と思う
	(あてはまるものに○)		
1. 小・中学校での卓球・剣道・バドミントン・柔道の個人開放(本年度は緑小、前原小、本町小、一中で実施)			
2. 一中クラブハウス(談話室・柔剣道場)の開放			
3. 一中テニスコートの開放			
4. 南中学校中庭テニスコートの夜間開放			
5. 総合学院テクノスカレッジ体育館の開放			

【スポーツ事業について】

問 26 以下のスポーツ事業をご存じですか。

	事業をご存じか (あてはまる方に○)
1. スポーツフェスティバル	知っていた / 知らなかった
2. 野川駅伝大会	知っていた / 知らなかった
3. 市民体育祭	知っていた / 知らなかった
4. シニアスポーツフェスティバル	知っていた / 知らなかった
5. ボッチャ教室(総合体育館で実施)	知っていた / 知らなかった
6. 土曜スポーツクラブ(総合体育館で実施) ※小・中学生対象	知っていた / 知らなかった

問 27 スポーツ事業に参加したことはありますか。また、今後参加してみたいですか。

	参加した ことがある	今後参加 してみたい	参加しない と思う
	(あてはまるものに○)		
1. スポーツフェスティバル			
2. 野川駅伝大会			
3. 市民体育祭			
4. シニアスポーツフェスティバル			
5. ボッチャ教室(総合体育館で実施)			
6. 土曜スポーツクラブ(総合体育館で実施) ※小・中学生対象のため、お子様がいらっしゃる方のみご回答ください。			

6. 運動・スポーツに関する情報収集についておたずねします

問 28 運動・スポーツに関する情報収集において、参考になっている媒体をご回答ください
(あてはまるものすべてに○)。

1. テレビ	10. ダイレクトメール、折り込みチラシ	18. メールマガジン・ メーリングリスト
2. ラジオ	11. 指導者・トレーナー	19. インターネット掲示板
3. 新聞	12. フリーペーパー	20. その他
4. 雑誌	13. パソコン	()
5. 本	14. スマートフォン	21. 参考にするものはない
6. 政府・自治体の広報誌	15. SNS	
7. ポスター	16. ブログ	
8. 家族	17. ホームページ	
9. 友人	(スポーツクラブ・自治体など)	

7. 東京2020オリンピック・パラリンピック後の変化についておたずねします

問 29 東京2020オリンピック・パラリンピック後に、あなたの運動・スポーツ活動にどのような変化・影響がありましたか(あてはまるものすべてに○)。

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1. 運動やスポーツを新たに始めたいと思うようになった | 5. スポーツ(競技)に関する情報を調べた、知りたいと思うようになった |
| 2. 運動やスポーツの頻度を増やした、増やしたいと思うようになった | 6. アスリートに関する情報を調べた、アスリートを知りたいと思うようになった |
| 3. スポーツの試合や大会を観戦した、観戦したいと思うようになった | 7. 特にない・わからない |
| 4. ボランティアに参加した、参加したいと思うようになった | 8. その他 () |

問 30 東京2020パラリンピックの開催によって、どのような効果が得られたと思いますか(あてはまるものすべてに○)。

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1. 障がい者への理解促進 | 5. まちのバリアフリー化の促進 |
| 2. パラスポーツ(障がい者スポーツ)の普及促進 | 6. 障がい者の雇用の増加 |
| 3. 共生社会への理解促進 | 7. その他 () |
| 4. パラアスリートの認知度向上 | 8. わからない |

8. 小金井市のスポーツ振興への期待や要望についておたずねします

問 31 小金井市のスポーツをもっと振興させるために、今後力を入れてもらいたいことを3つまであげてください。

力を入れてもらいたいこと	1位	2位	3位
選択肢番号			

- | | |
|--|--------------------------|
| 1. いつでも運動・スポーツのできる場の充実 | 6. 運動・スポーツに関する情報発信の充実 |
| 2. 地域のクラブやサークルの育成・支援 | 7. トップチーム・アスリートと連携した取り組み |
| 3. 運動・スポーツを支えるボランティアの支援 | 8. その他 () |
| 4. すべての人が参画できる、多世代・多項目・多志向型の運動・スポーツの充実 | 9. 特に力を入れてほしいものはない |
| 5. 公共スポーツ施設の機能・サービス充実 | 10. わからない |

問 32 その他、小金井市のスポーツ振興に対するご意見・ご要望がありましたら、下欄にご記入ください。

～アンケートは以上となります。ご協力誠にありがとうございました。～

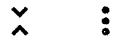


小金井市 スポーツに関する意識調査

質問 回答 設定

5 セクション中 1 個目のセクション

小金井市 スポーツに関する意識調査



フォームの説明

セ
ク
シ
ヨ
ン

次のセクションに進む



5 セクション中 2 個目のセクション

1. あなたご自身についておたずねしま



説明（省略可）

問1 あなたの性別をご回答ください

- 男性
- 女性
- その他

問2 あなたの年齢をご回答ください

- 10代
- 20代
- 30代



- 50代
- 60代
- 70代
- 80歳以上

問3 あなたの居住地をご回答ください。

- 東町
- 梶野町
- 関野町
- 緑町
- 中町
- 前原町
- 本町
- 桜町
- 貫井北町
- 貫井南町

問4 あなたの職業をご回答ください。

- 勤め人(パートタイム・アルバイト含む)
- 自営業
- 家族従業者(自分の家が経営する事業の手伝い)
- 主婦・主夫



無職

その他...

問5 あなたが現在一緒に住んでいる家族をご回答ください（あてはまるものすべてにチェック）。

配偶者

父親・母親

祖父母

子ども

孫・ひ孫

兄弟姉妹

ひとり暮らし

その他...

（問5で「子ども」「孫・ひ孫」と答えた方のみご回答ください）一番年齢の低い子ども・孫・ひ孫の成長段階をご回答ください。

0歳～小学校入学前

小学生

中学生

高校生

大学生・大学院生

学校教育終了

その他...



- 健康である
- どちらかといえば健康である
- どちらとも言えない
- どちらかといえば健康でない
- 健康でない

問7 あなたは、普段のご自身の体力について、どう思いますか。

- 体力に自信がある
- どちらかといえば体力に自信がある
- どちらとも言えない
- どちらかといえば体力に自信がない
- 体力に自信がない

問8 あなたは、普段運動不足を感じますか。

- ほとんど(まったく)感じない
- あまり感じない
- どちらとも言えない
- ある程度感じる
- 大いに感じる

セ
ク
シ
ヨ
ン

次のセクションに進む



5セクション中3個目のセクション



についておたずねします

説明（省略可）

問9 あなたはこの1年間に以下にあげる運動・スポーツを行いましたか(あてはまるものすべてにチェック)。

- 体操(ラジオ体操,職場体操,エアロビクス,縄跳び,ヨガを含む)
- ウォーキング(散歩などを含む)、ランニング、ジョギング
- ダンス(フォークダンス,ジャズダンス,社交ダンス,日本舞踊含む)
- ボウリング
- ゲートボール、グラウンドゴルフ
- 水泳
- 室内運動器具を使ってする運動
- キャッチボール、ドッジボール
- スキー、スノーボード、スケート
- 登山、キャンプ、オートキャンプ、ハイキング、オリエンテーリング
- スポーツクライミング
- ボート、ヨット、スキューバダイビング、カヌー、サーフィン、他水上スポーツ
- ゴルフ
- グライダー、スカイダイビング、ハンググライダー、パラグライダー
- サイクリング、モータースポーツ、サイクルスポーツ (BMXなど)
- ローラースケート、インラインスケート、スケートボード
- 陸上競技



- 相撲、ボクシング、レスリング
- 弓道、アーチェリー
- ラクロス、ホッケー
- 野球、ソフトボール
- サッカー、フットサル、ラグビー
- バレーボール、バスケットボール、ハンドボール
- テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球
- ニュースポーツ(ボッチャ、キンボール、フライングディスク、スポーツ吹き矢ほか)
- 車いすスポーツ(テニス、バスケットボール、ラグビー、陸上、卓球ほか)
- ゴールボール
- ブラインドサッカー
- シットティングバレーボール
- オンライン等を活用したスポーツ(アプリを活用した運動・トレーニング等)
- 運動・スポーツは行わなかった
- その他...

問10 この1年間で、あなたが運動・スポーツをした場所を「3つまで」あげてください。

- 公共のスポーツ施設(市内)
- 公共のスポーツ施設(市外)
- 学校体育施設(学校の体育館・運動場等)
- 民間商業インドア施設(フィットネス、ジム等)
- 民間商業アウトドア施設(レジャープール、ゴルフ場等)



- 職場または職場敷地内
- 公園
- 公民館
- 空き地
- 道路
- 山岳・森林・海・川等の自然環境
- わからない
- その他...

問11 この1年間の、運動・スポーツの実施形式を3つまであげてください。

- 職場のクラブや同好会に所属して
- 学校のクラブや同好会に所属して
- 同じまたは近くの市の人が加入しているクラブや同好会に所属して（※黄金井倶楽部・体育協会加盟団体...
- 黄金井倶楽部に所属して
- 体育協会加盟団体に所属して
- 公共施設で行われているスポーツや体カづくりの教室で
- フィットネスクラブ等の民間の会員制スポーツクラブで
- 個人で自由に
- 地域の友人と自由に
- 職場の友人と自由に
- 地域のイベントで
- 職場のイベントで



わからない

その他...

問12 この1年間で運動・スポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか。

- 週に5日以上(年251日以上)
- 週に3日以上(年151日~250日)
- 週に2日以上(年101日~150日)
- 週に1日以上(年51日~100日)
- 月に1~3日(年12日~50日)
- 3か月に1~2日(年4日~11日)
- 年に1~3日
- わからない

問13 あなたは現在の運動・スポーツの実施頻度に満足していますか。

- 満足している
- やや満足している
- どちらとも言えない
- やや不満である
- 不満である

問14 1回あたりの運動・スポーツ実施時間はどの程度ですか。

- 15分未満



30分～60分未満

1時間～2時間未満

2時間以上

問15 運動・スポーツを実施する時間帯はいつ頃が多いですか。

午前4時～午前8時

午前8時～正午

正午～午後6時

午後6時～午後10時

午後10時～午前4時

問16 運動・スポーツの継続状況と今後の意向をご回答ください。

現在継続的に運動・スポーツを行っており、1年以上経過している

現在継続的に運動・スポーツを行っているが、始めてから1年未満である

現在運動・スポーツを行っているが、継続的ではない

現在運動・スポーツを行っていないが、1年以内に始めようと思っている

現在運動・スポーツを行っていないし、今後もするつもりはない

わからない

セ
ク
シ
ヨ
ン 次のセクションに進む

5セクション中4個目のセクション

3 運動・スポーツに対する考え方について × ⋮



説明（省略可）

問17 以下のうち、あなたが運動・スポーツをする理由・動機づけになるものをご回答ください(あてはまるものすべてにチェック)。

- 健康・体づくり、ダイエット、運動不足解消
- ストレス解消、気分転換
- 友人・仲間との交流、交友関係の拡大
- 自己の記録や能力の向上
- トップチーム・アスリートの活躍からの触発

問18 この1年間に運動・スポーツを実施していない方にお伺いします。あなたが運動・スポーツをしない／できない理由になるものをご回答ください(あてはまるものすべてにチェック)。

- 時間的に余裕がない
- 天気が悪い
- 面倒くさい
- 仕事が忙しい
- 場所や施設がない
- 疲れやすい
- 仲間がいない
- 家事・子育て・介護が忙しい
- 年齢や病気などにより、医者や家族が勧めない
- 運動・スポーツが嫌い・つまらない
- 生活や仕事で十分に体を動かしている



問19 あなたが今後新たに始めたい・体験したい運動・スポーツをご回答ください(あてはまるものすべてにチェック)。

- 体操(ラジオ体操,職場体操,エアロビクス,縄跳び,ヨガを含む)
- ウォーキング(散歩などを含む)、ランニング、ジョギング
- ダンス(フォークダンス,ジャズダンス,社交ダンス,日本舞踊含む)
- ボウリング
- ゲートボール、グラウンドゴルフ
- 水泳
- 室内運動器具を使ってする運動
- キャッチボール、ドッジボール
- スキー、スノーボード、スケート
- 登山、キャンプ、オートキャンプ、ハイキング、オリエンテーリング
- スポーツクライミング
- ボート、ヨット、スキューバダイビング、カヌー、サーフィン、他水上スポーツ
- ゴルフ
- グライダー、スカイダイビング、ハンググライダー、パラグライダー
- サイクリング、モータースポーツ、サイクルスポーツ (BMXなど)
- ローラースケート、インラインスケート、スケートボード
- 陸上競技
- 柔道、剣道、空手、合気道、居合道、太極拳
- 相撲、ボクシング、レスリング
- 弓道、アーチェリー



- 野球、ソフトボール
- サッカー、フットサル、ラグビー
- バレーボール、バスケットボール、ハンドボール
- テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球
- ニュースポーツ(ボッチャ、キンボール、フライングディスク、スポーツ吹き矢ほか)
- 車いすスポーツ(テニス、バスケットボール、ラグビー、陸上、卓球ほか)
- ゴールボール
- ブラインドサッカー
- シットティングバレーボール
- オンライン等を活用したスポーツ(アプリを活用した運動・トレーニング等)
- その他...

セ
ク
シ
ヨ
ン

次のセクションに進む

5 セクション中 5 個目のセクション

4. 新型コロナウイルス感染症が運動・スポーツ習慣に与えた影響についておたずねします

説明 (省略可)

問20-1 新型コロナウイルス感染症まん延前(2019年)と比較して、現在の「運動・スポーツをする意欲」はどう変わったと感じていますか。

以前より高くなった



- 以前と変わらない
- 以前よりやや低くなった
- 以前より低くなった

問20-2 新型コロナウイルス感染症まん延前(2019年)と比較して、現在の「運動・スポーツを観る意欲」はどう変わったと感じていますか。

- 以前より高くなった
- 以前よりやや高くなった
- 以前と変わらない
- 以前よりやや低くなった
- 以前より低くなった

問20-3 新型コロナウイルス感染症まん延前(2019年)と比較して、現在の「運動・スポーツを支える(ボランティア等)意欲」はどう変わったと感じていますか。

- 以前より高くなった
- 以前よりやや高くなった
- 以前と変わらない
- 以前よりやや低くなった
- 以前より低くなった

問21 新型コロナウイルス感染症の影響下において、運動・スポーツを実施する理由・動機づけになると考えられるものをご回答ください(あてはまるものすべてにチェック)。

- テレワーク等の導入による余暇時間の拡大
- ストレス解消



家でもできる運動・スポーツ情報の充実

オンライン形式のイベント・大会の充実

施設・設備の感染対策の徹底

その他、小金井市のスポーツ振興に対するご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

記述式テキスト（短文回答）





小金井市 スポーツに関する意識調査(小・中学生対象)

質問 回答 設定

小金井市 スポーツに関する意識調査(小・中学生対象)

お子様が2人以上いらっしゃる場合、お子様ごとにご回答ください。

問1 お子様の性別をご回答ください。

- 男性
- 女性
- その他

問2 お子様の学年をご回答ください。

- 小学1年
- 小学2年
- 小学3年
- 小学4年
- 小学5年
- 小学6年
- 中学1年
- 中学2年



中学3年

問3 お子様の居住地をご回答ください。

- 東町
- 梶野町
- 関野町
- 緑町
- 中町
- 前原町
- 本町
- 桜町
- 貫井北町
- 貫井南町

問4 新型コロナウイルス感染症まん延前(2019年)のお子様の運動・スポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか。

- 週に5日以上(年251日以上)
- 週に3日以上(年151日~250日)
- 週に2日以上(年101日~150日)
- 週に1日以上(年51日~100日)
- 月に1~3日(年12日~50日)
- 3か月に1~2日(年4日~11日)



わからない

問5 この1年間のお子様の運動・スポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか。

週に5日以上(年251日以上)

週に3日以上(年151日～250日)

週に2日以上(年101日～150日)

週に1日以上(年51日～100日)

月に1～3日(年12日～50日)

3か月に1～2日(年4日～11日)

年に1～3日

わからない

問6-1 お子様のこの1年間の運動・スポーツを実施した日数が新型コロナウイルス感染症まん延前より少ない方にお伺いします。お子様の運動・スポーツ実施日数が減少した理由について、あなたが把握している範囲でお答えください(あてはまるものすべてにチェック)。

通っている学校の部活動・スポーツ少年団の活動時間が減少したから

国や都から外出自粛要請等があったから

習い事の活動機会が減少したから

公共施設等の使用制限により

感染対策として運動・スポーツを控えたから

その他...



どのような変化がありましたか(あてはまるものすべてにチェック)。

- スクリーンタイムが増えた(テレビゲーム,スマートフォン,タブレット等で遊ぶ時間)
- イライラすることが多くなった
- 寝つき・寝起きが悪くなった
- 元気がなくなった
- 食事の量・回数が減った
- 反抗的になった
- 文化的な活動が増えた(本を読む,音楽を聞く,絵を描く ほか)
- 勉強するようになった
- 変わらない
- その他...

その他、小金井市のスポーツ振興に対するご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

記述式テキスト (短文回答)



令和4年度 スポーツ推進審議会スケジュール (案)

第1回

日時 4月20日(水) 18時00分～

場所 小金井市役所第二庁舎801会議室

第2回

日時 7月26日(火) 18時00分～

場所 小金井市役所第二庁舎801会議室

第3回

日時 8月23日(火) 18時00分～

場所 小金井市役所第二庁舎801会議室

第4回

9月開催予定(今後日程調整させていただきます)

第5回

日時 10月25日(火) 18時00分～

場所 小金井市役所第二庁舎801会議室

第6回

日時 令和5年2月28日(火) 18時00分～

場所 小金井市役所第二庁舎801会議室